

次世代型アスファルト防水

# BANKS工法

建設技術審査証明取得

環境対応型改質アスファルト防水  
ノンケトル冷熱併用工法

次世代型アスファルト防水

# BANKS工法

## 日本の建物を守ってきた アスファルト防水100年の結論。

アスファルト防水の信頼性はそのままに、  
溶融釜を使わない画期的な工法に進化。  
新築のみならず、改修にも適した本格アスファルト防水。

「防水」には素材や施工法によりいくつかの種類がありますが、  
その中でも「アスファルト防水」は100年来の歴史と実績を持つ最も信頼性の高い防水工法として、  
現在でも超高層ビル・集合住宅等の多くの建物に採用されています。  
アスファルト防水の高い信頼性はそのままに、時代に合わせて工法を画期的に進化させたのが「BANKS工法」です。  
より水密性の高い防水層の形成を可能にし、環境へも一層の配慮を施し、日本の建物防水をリードしていきます。





## アスファルト防水の集大成

# BANKS工法

アスファルト防水は100年の歴史の中で防水性と耐久性の向上を図り、さらに持続可能な社会に向けて環境へも配慮し、進化をとげてきました。

その集大成が、環境対応型改質アスファルト防水ノンケトル冷熱工法「BANKS工法」です。

従来のアスファルト熱工法はルーフィングを積層するための溶融アスファルトを、専用の釜を用いて溶かして施工します。しかし、釜での溶融作業に伴い発生する臭いと煙が敬遠される傾向にあります。BANKS工法では、下層ルーフィング表面を炙ることで溶融アスファルトのバンク(溶けだしアスファルト)を現出させて施工します。溶融アスファルトが“水みち”に隙間なく充填されるため、熱アスファルトと同等の防水信頼性が得られます。溶融釜を使用しないため、臭い・煙がほとんど発生しない工法です。

### アスファルト防水工法の変遷



#### 1 熱工法

アスファルト防水の歴史は熱工法からはじまりました。溶融釜で加熱溶融したアスファルトとルーフィングを積層する工法です。

※1905年(明治38年)  
大阪瓦斯本社ビルにアスファルト防水が施工された年



#### 2 冷工法 (粘着工法)

アスファルト防水を火を使わずに施工できるように、裏面に粘着層をコーティングしたルーフィングにより施工する工法です。

※1970年 ガムロン発売

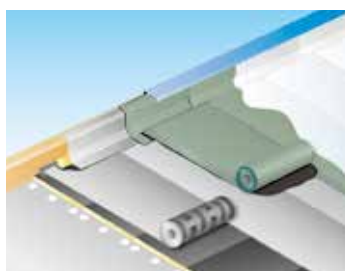


#### 3 冷熱工法 (ストライプ工法)

従来の熱工法の信頼性はそのままにストライプ粘着層付高性能ルーフィングを組合せ、省エネ・省力化を実現し、フクレ防止や絶縁機能等さまざまな進化をとげました。

※1988年 ストライプルーフィング発売

#### 4 次世代型アスファルト防水 BANKS工法



BANKS工法は、1層目に貼り付ける「強力バンクルーフ」の表面に溶融性・流動性の高いアスファルトをプレコートし、表層を溶融性の高いフィルムで仕上げています。表面をあぶることでフィルムが溶け、容易にバンク(溶け出しアスファルト)を形成し、従来のアスファルト防水熱工法と同様に、溶け出しアスファルトを目視確認しながら施工できる工法です。

since  
2006年

## BANKS工法の特長

**1** 全層改質アスファルトルーフィングの積層工法による高い防水信頼性があります。

**2** ストライプ状粘着層による、安定したフクレ防止機能があります。

**3** 溶融釜を使わず、作業環境・周辺環境がクリーンで安全性が高い防水工法です。

**4** 近隣火災時の防火性能を確認する国土交通大臣による防火(飛び火)認定を取得しています。



BANKS工法は、熱アスファルト防水施工時における諸問題を解決しただけではありません。

材料そのものの品質、機能を向上させることで、より優れた防水層を形成します。

使用するすべてのルーフィングは、高品質の改質アスファルトを用いており、耐候性や接着力、その他防水層に要求される機能を十分に満足させる性能を誇ります。

高性能のルーフィングを使用することで、熱アスファルト防水(官公庁仕様)と比べて積層数を軽減し、工期の短縮化を図ることを可能にしました。

## 技術審査証明により裏付けられた優れた防水性能 ~熱工法に匹敵~

BANKS工法は環境対応型改質アスファルト防水ノンケトル冷熱併用工法として、(財)日本建築センターの建設技術審査証明書(建築技術)(BCJ-審査証明-175)を取得いたしました。これにより公共建築工事標準仕様書(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)のアスファルト防水熱工法と同様の防水性能を有することが証明されています。

種別	公共建築工事標準仕様書	BANKS工法
屋根露出防水	D-1	JSX-020
屋根露出断熱防水	DI-1	JSX-020G
屋根保護防水	A-1・B-1	JPX-035
屋根保護断熱防水	AI-1・BI-1	JPX-035R
室内防水	E-2	JID-025

### 技術審査証明とは

「建築技術審査証明事業(建築技術)」は、平成13年まで、建設大臣告示に基づいて建設大臣から認定を受けて14の公益法人が行ってきた「民間開発建設技術の技術審査・証明事業」の実績をふまえて、建設技術審査証明協会が設立した事業で、建築物等の各種技術(設計、材料、部材、構法、施工、検査、保全、改修、解体等)に関し、民間で開発された様々な新しい技術について審査し、認証を行っています。



BANKS(JSX-020)

D-1仕様

D-1(右)仕様をBANKS工法(左)で施工すると、材料使用量が大幅減少。

荷揚げや材料置き場の確保など工事現場の制約に左右されにくく、スピーディーな工事の進行を応援します。

# 防水性能の立証

技術審査証明の取得には、諸性能についての様々なデータが要求されます。  
 官公庁仕様とBANKS仕様、それぞれの防水層評価試験を行い、結果を比較します。  
 ※区分1～5は当社による独自の評価を設定したものです。劣化処理は80℃加熱処理112日間(各試験共通)

## 引張性能

試験方法: JIS A6022の試験条件に準拠し、各防水仕様を層として引張試験を行う。

試験体形状: 幅50mm×長さ200mm

つかみ間隔: 100mm

試験速度: 100mm/分

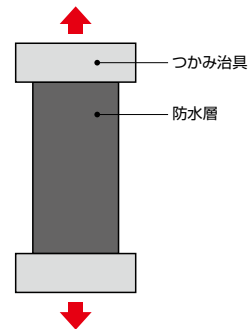
試験温度: 20℃

試験種類: 引張強度、伸び率、抗張積それぞれについて長手・幅方向別、劣化処理別に行う。

引張強度・伸び率・抗張積試験結果 評価区分

	引張強度	最大荷重時伸び率	抗張積
区分1	100N/cm未満	5% 未満	800 N・%/cm 未満
区分2	100N/cm以上160N/cm未満	5% 以上10%未満	800 N・%/cm以上1600 N・%/cm未満
区分3	160N/cm以上200N/cm未満	10% 以上15%未満	1600 N・%/cm以上2400 N・%/cm未満
区分4	200N/cm以上240N/cm未満	15% 以上20%未満	2400 N・%/cm以上3200 N・%/cm未満
区分5	240N/cm以上	20% 以上	3200 N・%/cm以上

引張性能試験



## 耐疲労性能

JIS A6013に規定された耐疲労性試験の下地板に貼った防水層を試験体とする。

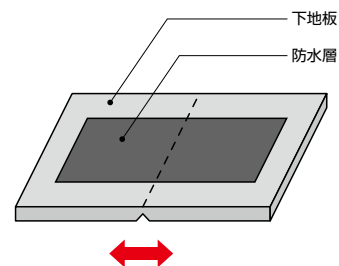
試験方法

- ① 試験体の防水層を内側にして下地板を折り曲げて、その切り込み部分を割る。
- ② 試験体を疲労試験機に固定し、20℃の温度に1時間以上静置する。
- ③ 下地板の亀裂部に0.5～2.5mmの拡大縮小を1回/2分×200回繰り返す。
- ④ 下地板の亀裂幅を2.5mmに拡大した状態で、防水層表面を肉眼で観察する。  
終了後、下地板の亀裂幅を0.5mmに閉じる。
- ⑤ 試験体を40℃に3時間以上静置する。
- ⑥ ③～④を繰り返す。
- ⑦ 試験体を-10℃に3時間以上静置する。
- ⑧ ③～④を繰り返す。→試験はJIS A6013の方法

耐疲労性試験結果 評価区分

区分1	防水層全体の破断(初期、劣化処理後何れか一方で)
区分2	初期試験においてルーフィングの破断現象
区分3	初期試験異常なし。劣化処理後試験にてルーフィング破断
区分4	初期試験異常なし。劣化処理後試験にて試験体剥離
区分5	初期試験異常なし。劣化処理後試験異常なし。

耐疲労性能試験



## 接着性能(対象:露出防水層のみ)

JIS A6013に規定された接着性試験の下地板に防水層を施工し  
 その上に40×40mmのアタッチメントを貼り付け、試験体とする。

試験方法: JIS A6013に規定された接着性試験の試験方法に準ずるものとする。

試験速度: 10mm/分

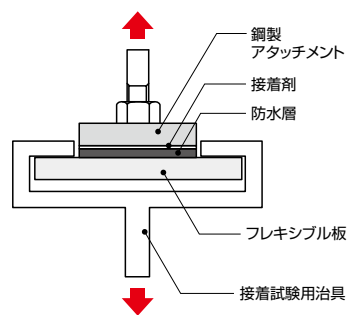
※耐風圧強度は測定値に実際の接着面積比を乗じて算出。  
 ストライプルーフィング類: 54%、穴あきルーフィング: 13.5%

試験評価: 建築基準法による風圧力算定では、最大の基準風速(46m/秒)、地表面粗度区分I、  
 高さ300m、屋根コーナー部においても1.6N/cm<sup>2</sup>程度になることから、初期値で2N/cm<sup>2</sup>を  
 基準とし、十分な安全率を有するものを5N/cm<sup>2</sup>として区分する。

接着強度試験結果 評価区分

区分1	初期接着強度 2N/cm <sup>2</sup> 未満
区分2	初期接着強度 2N/cm <sup>2</sup> 以上 劣化処理後 2N/cm <sup>2</sup> 未満
区分3	2N/cm <sup>2</sup> 以上 劣化処理後 2N/cm <sup>2</sup> 以上
区分4	初期接着強度 5N/cm <sup>2</sup> 以上 劣化処理後 2N/cm <sup>2</sup> 以上
区分5	初期接着強度 5N/cm <sup>2</sup> 以上 劣化処理後 5N/cm <sup>2</sup> 以上

接着性能試験



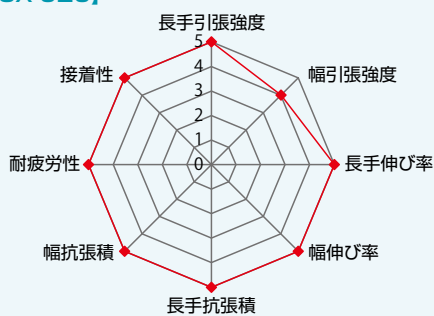
# 仕様別比較(レーダーチャート)

評価試験結果をレーダーチャートに反映することで、それぞれの仕様の性能が視覚化され、比較しやすくなります。

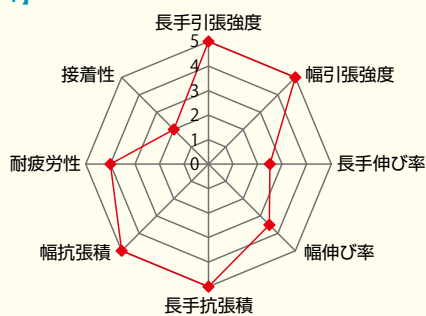
## 露出仕様

BANKS

[JSX-020]



[D-1]

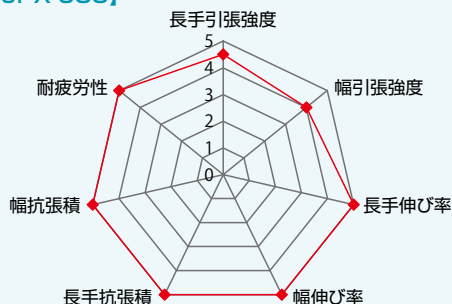


官公庁

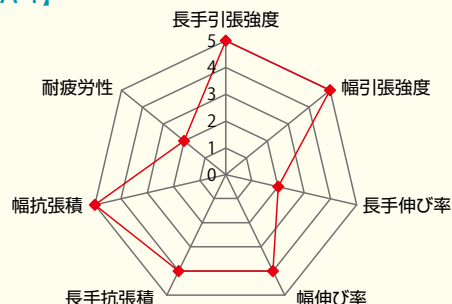
## 保護仕様

BANKS

[JPX-035]



[A-1]

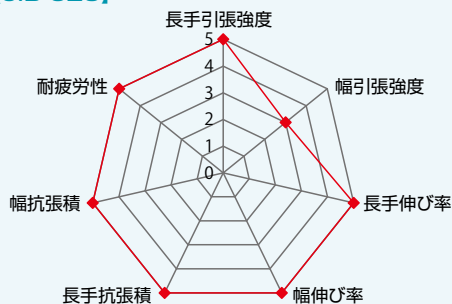


官公庁

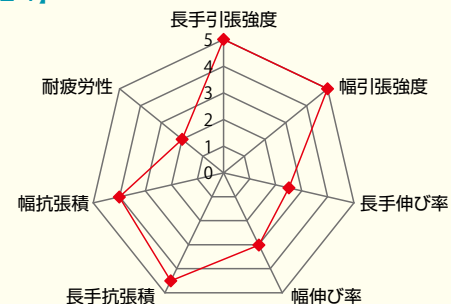
## 室内仕様

BANKS

[JID-025]



[E-1]



官公庁

各仕様において、BANKSは区分3~5の間で安定した評価を得ています

# BANKS工法

にプラスする

# 3つの環境性能

## +1 外断熱

サーモコントロール断熱

夏の暑さ、冬の寒さなど熱の影響を和らげる「断熱」と防水層表面を遮熱化することで、太陽光による温度上昇を抑制する「遮熱」。両者を組み合わせた「サーモコントロール断熱」は防水層を長持ちさせつつ、省エネ効果を発揮する手法です。

詳しくは9~12ページをご覧ください

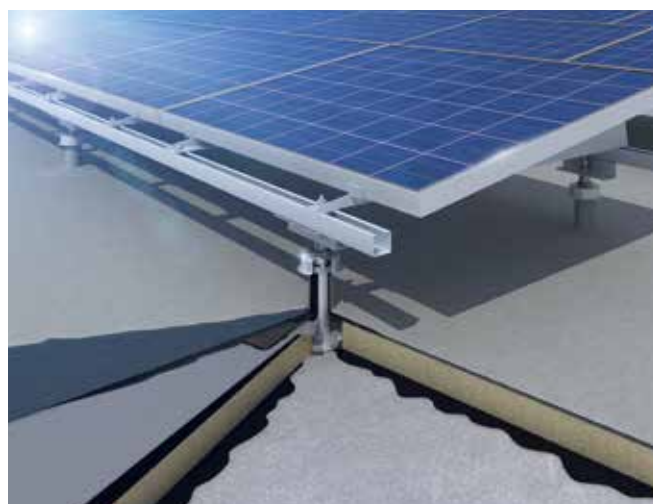


## +2 太陽光発電

PV-FIXシステム

屋上は太陽光発電にとって最適な場所であり、また建物にとっても屋上は防水のもっとも重要な場所でもあります。防水層との取り合いを十分に考慮した、ソーラーパネル設置用乾式基礎「ソーラーベース」なら、断熱工法にも安心安全にソーラーパネルを設置できます。

詳しくは13ページをご覧ください



## +3 屋上緑化

耐根・Gウェイブシステム

屋上を美しく彩り、快適な空間をつくる「屋上緑化」。しかし植物の根は驚くほど強く、防水層を貫通し漏水事故を引き起こすこともあります。耐根防水仕様なら、長時間にわたり植物の根から建物を守ります。さらに屋上緑化システム「Gウェイブ」で目的や条件に合わせた屋上緑化が可能です。

詳しくは14ページをご覧ください





## 環境性能と防水仕様

+1	サーモコントロール断熱	9
+2	太陽光発電	13
+3	屋上緑化	14
	露出仕上げ 断熱仕様/非断熱仕様	15
	保護コンクリート仕上げ 断熱仕様/非断熱仕様	17
	屋内仕様	18
	立上り仕様のバリエーション	19
	改修の場合の下地処理	23
	各種仕上げ材	25

### 仕様番号の見方

**JSX**

工法

- JSX 露出仕上げ
- JPX 保護仕上げ
- JID 屋内仕様

**0**

改訂年度

**20**

グレード

**G**

断熱

- G ギルフォーム
- R RBボード
- スタイロフォームRB-GK-II

**F**

防湿層

**TH**

保護塗料

- TH SPサーモコート
- SF SPファインカラー
- SD SPミッドカラー
- SM SPマルチカラー
- SC SPクリーンカラー

### アイコンの説明



**歩行**

不特定の人が多目的に使用



**非歩行**

メンテナンス程度の使用



**瑕疵担保履行法**

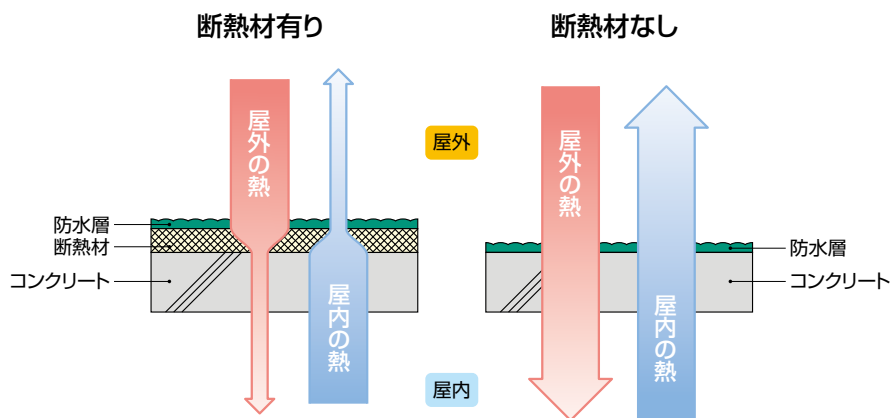
住宅瑕疵担保責任保険、および大規模修繕瑕疵担保責任保険において住宅保証機構株式会社の設計施工基準第3条の申請を行い、確認を受けた仕様  
(法人ごとに確認書を用意しております。詳細は弊社営業担当にご相談ください。)

### 防水層の耐用年数、重量目安、厚みの表記について

- 基本耐用年数: 東西アスによる1,300件以上におよぶ工事実績を分析し、その結果の統計処理を行い、基本となる耐用年数を設定しました。
- 重量目安: 下地処理材、防水層、断熱材、接着剤を含みます。保護塗料、保護コンクリートは含みません。
- 厚み: 防水層、断熱材、仕上げ材を含みます。下地処理材、接着剤、保護コンクリートは含みません。

# +1 BANKS工法に 外断熱 サーマコントロール断熱 をプラスする

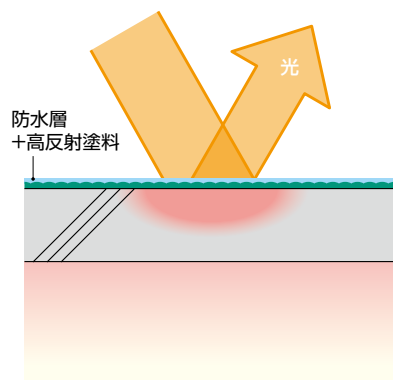
サーモコントロール断熱は、防水層に断熱と遮熱機能を付与したシステムです。  
断熱と遮熱それぞれの説明とそれらを組み合わせるメリットについてご案内します。



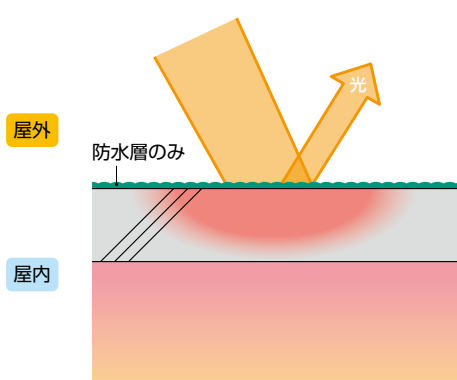
## 断熱とは熱を 伝えにくくする機能です

断熱工法では、断熱材のある部位で熱の行き来が制限されるため、外気温の影響が少なくなります。また、室内冷暖房の熱が流出するのを防ぐ効果があります。断熱工法には、建物の内側に断熱材を設ける「内断熱」と、外側に設ける「外断熱」の2種類があり、構造体の保護という視点から、現在は「外断熱」が主流となっています。

## 高反射塗料有り



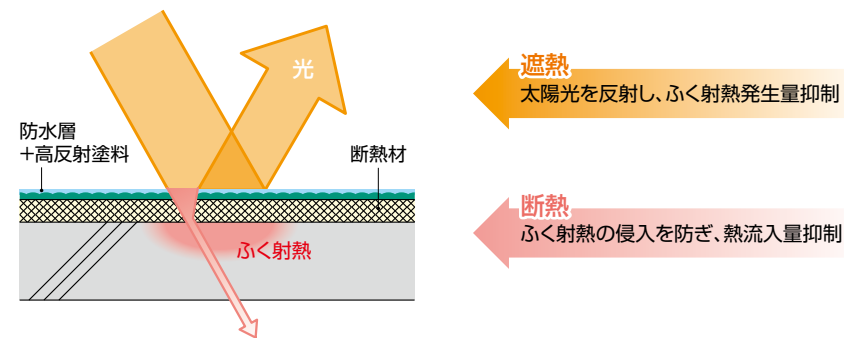
## 高反射塗料なし



## 遮熱とは太陽光を 反射させる機能です

太陽光は物に当たると熱エネルギーに変換されます。遮熱とは、太陽光、特に熱エネルギーとして吸収されやすい近赤外波長領域を反射させることで、この熱量を軽減する機能のことです。高反射機能を持つ塗料を防水層表面に塗布することで、近赤外波長領域を反射し、夏場の屋上表面温度を下げる効果が得られます。

## 断熱材+高反射塗料



## 断熱+遮熱=それが サーモコントロール断熱 です

外断熱防水に高反射塗料を組合せると、特に夏場において、双方の優れた点を足し算した効果が得られます。まず、高反射塗料によって、熱エネルギーに変換されるふく射熱の量が減らされます。次に、減量されたふく射熱が屋内に伝わろうとするのを断熱材が妨げます。

断熱+遮熱の2段階で、屋内の温熱環境をより安定した状態にするのが「サーモコントロール断熱」です。

# サーモコントロール断熱は 室内だけでなく躯体や防水層にも メリットを生み出します

高い  
省エネ効果

防水層の  
長寿命化

コンクリート  
伸縮抑制

## 実建築物によるサーモコントロール断熱効果の検証

サーモコントロール断熱がどのような効果を生み出すかについては、実際の建物で検証実験を行っています。

下図の屋根構成の建物で、夏季・冬季に温度測定を行い、結果の一部を下記比較に使用しています。

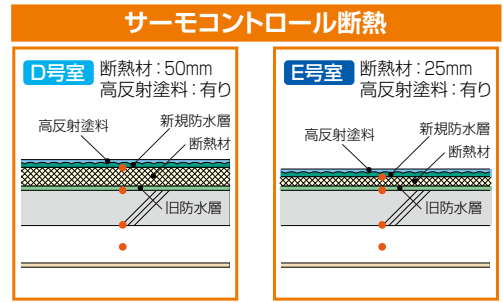
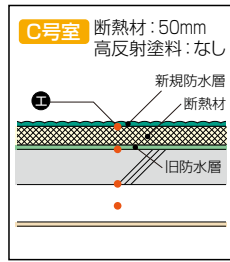
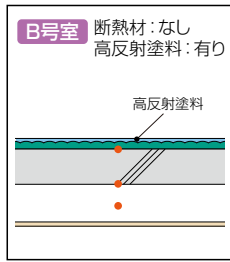
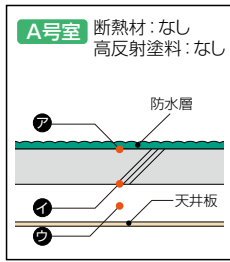
- 場所: 東京都足立区
- 構造: 鉄筋コンクリート造
- 階高: 地上4階
- 防水層種別: アスファルト防水
- 屋上コンクリート厚: 120mm
- 測定期間: 【夏期】2012年8月21日～8月25日  
【冬期】2013年1月25日～1月29日

屋上を防水層・断熱材・高反射塗料を組合せたいくつかのブロックに分けて、直下のコンクリート・小屋裏等の温度を測定しました。測定対象となる部位に温度センサーを設置し、夏および冬のデータを取得しました。



各部屋の屋上の様子

### 各部屋の屋根構成と温度測定部位(●=温度測定点)



※断熱材: ギルフォーム(硬質ウレタンフォーム)、高反射塗料: SPサーモコート

高い  
省エネ効果

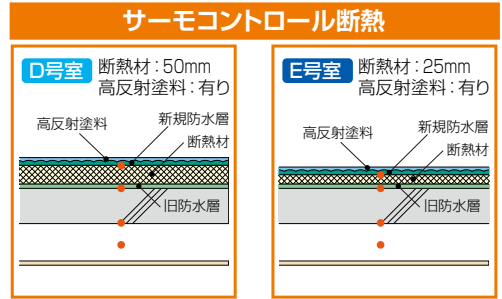
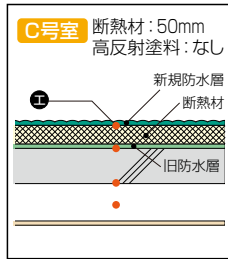
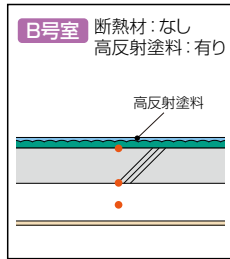
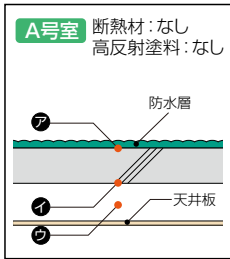
冷房・暖房などの空調は部屋を快適な温度にするのが目的です。本来の温度(冷暖房なしでの温度)が、空調設定温度に近いほど、エアコンなどで消費するエネルギーは少なくて済みます。

コンクリート下面温度(測定点●)と空調温度(夏: 28℃/冬: 20℃に設定)の差[単位: ℃]

部 屋		サーモコントロール断熱				
		A号室	B号室	C号室	D号室	E号室
夏期	コンクリート下面最高温度(a)	42.2	37.1	33.2	31.1	33.6
	空調設定温度(b)	28				
	差(a-b)	14.2	9.1	5.2	3.1	5.6
冬期	コンクリート下面最低温度(c)	7.9	4.6	17.0	17.1	14.2
	空調設定温度(d)	20				
	差(d-c)	12.1	15.4	3.0	2.9	5.8

室内温度に影響を与えやすいコンクリート下面温度と空調設定温度の差が小さいのが「D・E号室」となっており、サーモコントロール断熱の採用で省エネ効果が期待できることが分かります。

各部屋の屋根構成と温度測定部位(●=温度測定点)



※断熱材:ギルフォーム(硬質ウレタンフォーム)、高反射塗料:SPサーモコート

**防水層の  
長寿命化**

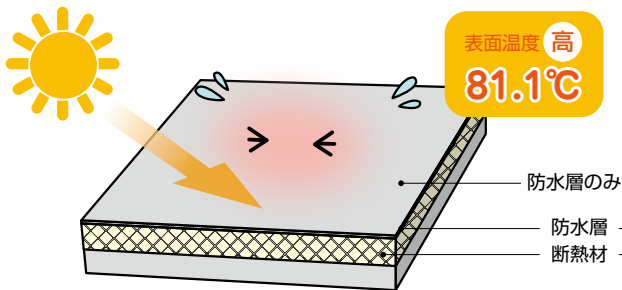
外断熱工法は屋内に快適な環境をもたらしますが、  
夏季は断熱材上に熱が溜まる影響で防水層が高温になってしまい、その結果劣化が促進され、  
防水層の寿命が短くなる懸念があります。

防水層最高温度

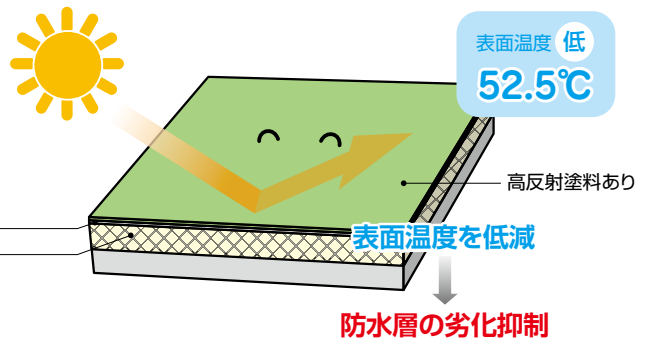
部 屋	A号室	B号室	C号室	D号室	E号室
防水層温度(°C)	53.3	39.4	81.1	52.5	54.1
測定部位	ア	ア	イ	イ	イ

**サーモコントロール断熱**

露出外断熱工法



サーモコントロール断熱



高反射塗料の塗布により、ふく射熱の発生が抑えられた結果、防水層温度上昇が抑制され、劣化にいたる時間がのびることが期待できます。

**サーモコントロール断熱は、建物の外側(防水層)・コンクリート・**

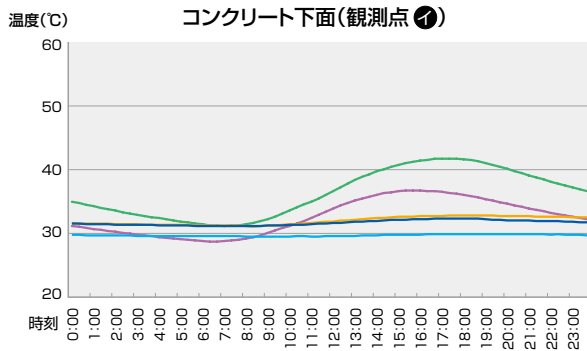
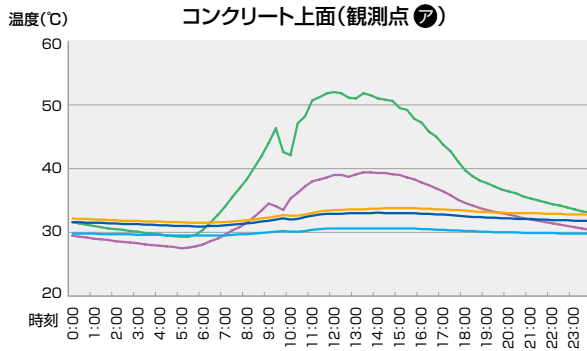
## コンクリート伸縮抑制

外断熱工法にすると、断熱材内側にあるコンクリートの温度が安定することで、以下の効果が期待できます。

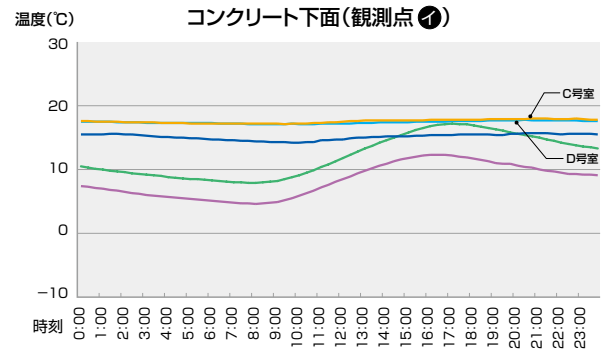
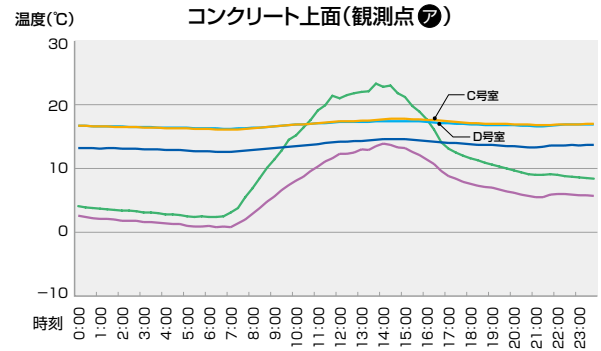
- ① コンクリート温度が安定することで、室温も比較的安定する傾向になる。
- ② 温度変化によるコンクリートの熱伸縮を軽減できる。

### A 一日でのコンクリート温度変化

夏期測定結果



冬期測定結果



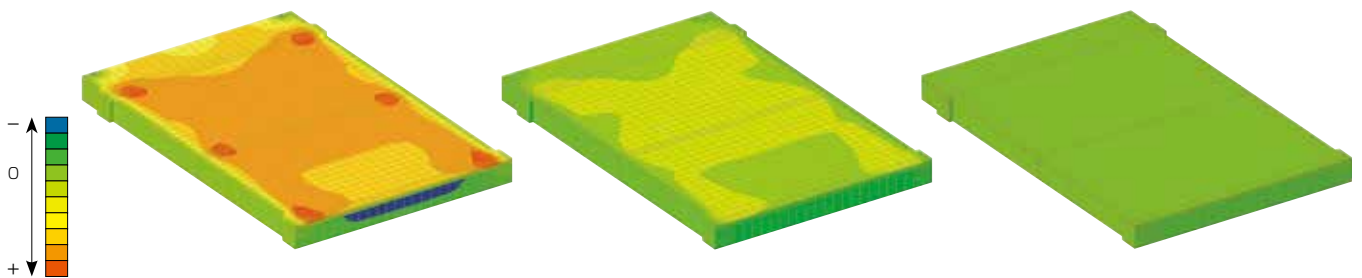
### B 屋上コンクリートの応力図(夏期)

① 断熱:なし/高反射塗料:なし

② 断熱:なし/高反射塗料:有り

③ 断熱:有り/高反射塗料:有り

サーモコントロール断熱



応力度合 ※上図は+ (プラス) 応力が大きいほど赤に近い色で、- (マイナス) 応力が大きいほど青に近い色で表示され、緑が応力0に近い状態を表します。

断熱工法では、昼夜を通してコンクリート上面と下面の温度差がかなり小さくなっています(グラフA)。コンクリート上面の応力をシミュレーションした応力図(B)では、サーモコントロール断熱を施した③に応力があまり生じていない一方で、断熱材も高反射塗料もない①には、応力が発生していることが判ります。

屋内すべての環境をより良好な状態に維持するシステムです。

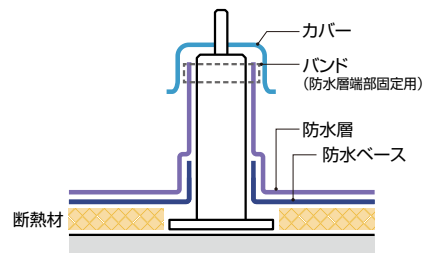
# +2 BANKS工法に 太陽光発電 PV-FIXシステム をプラスする

## 防水機能にも十分配慮した基礎「PV-FIXソーラーベース」

ソーラーパネル設置用乾式基礎「ソーラーベース」は防水材料メーカーが開発した、新築だけでなく既存の建物にも、断熱工法にも設置が可能な、ソーラーと防水の共生を可能にする、これからのソーラーパネル設置用基礎です。

ソーラーベースは、防水層との取り合いを十分に考慮し、ベース部と防水層の貼り代を幅広く取ることで水密性を確保しています。

さらに十分な設計耐力を有しており、安心・安全にソーラーパネルの設置ができるようになっています。(右図:ソーラーベースW70断面イメージ)



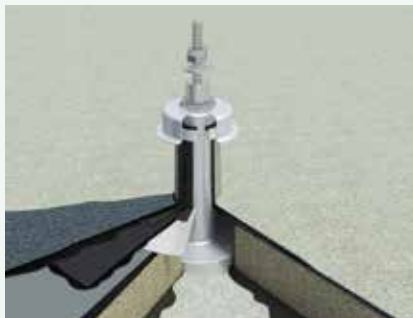
### 外断熱工法にしっかり対応

外断熱工法に対応したソーラーベースW70なら、コンクリート基礎に比べ熱欠損を少なくすることができるので、外断熱の機能を最大限に発揮できます。

### 小型の乾式基礎なので ソーラーパネルを低く設置できます

ソーラーパネルは防水層との取り合いを考慮した形状と強度を有しているため、従来のコンクリート基礎と比較して軽量で、さらにソーラーパネルの高さを低く設置できるため、建物への負担を軽減できます。

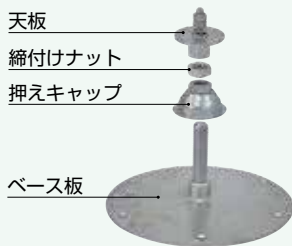
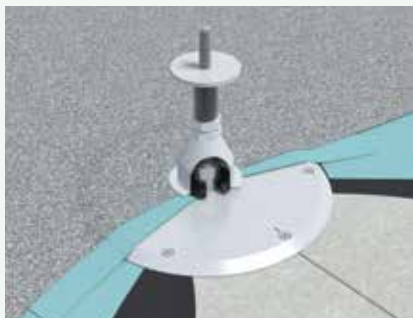
ソーラーベースW70(断熱工法用)



#### 特長

- 断熱工法に対応 (断熱材+防水層=85mm)
- コンクリート基礎が必要ないため、軽量で工期短縮が図れる
- 60mmアジャスト可能

ソーラーベースS



#### 特長

- コンクリート基礎が必要ないため、軽量で工期短縮が図れる
- 15mmアジャスト可能
- 可動式押えキャップにより防水末端が保護され、メンテナンスも可能

※ソーラーベースの詳細については別冊「PV-FIX」カタログをご参照ください。

# +3 BANKS工法に 屋上緑化 耐根・Gウェイブシステム をプラスする

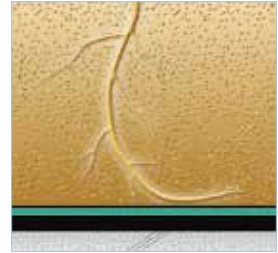
## 植物の根は強い。だから確実な耐根性能が重要です

植物の根は驚くほど強く、長い年月の間に防水層を貫通し、漏水事故を引き起こすこともあります。そのため、屋上緑化にはあらゆる場合を想定した、確かな性能を持つ耐根層が必要とされています。

まずは、しっかりした耐根層を設けることが重要なポイントです。

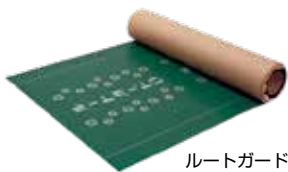
さらに屋上緑化では、保水・排水・通気などに十分な配慮が必要です。

Gウェイブはこれらへの対応に加え、耐風圧性能など屋上ならではの課題についても考慮された緑化システムです。



## 耐根層に求められるもの

耐根層には、耐水性に優れ、土中の水分による変形や変質が無く、長期に渡って根の侵入を防止する機能が求められます。



ルートガードD



ルートガードテープ



Gウェイブシステム  
+  
ルートガードD  
+  
BANKS工法

## 耐根層を形成するシートとテープ

ルートガードDは、表面に耐根性に優れた特殊フィルムで仕上げた、粘着層付シートです。ルートガードテープでシートのラップ部段差を覆うように増し貼りすることで、耐根性能を確実なものにします。

## 一般ストレッチルーフィングと ルートガードDの耐根性能比較

根の生育力が非常に強いとされているクマザサを用い、約1年間生育した後の様子が右の写真です。根の進行を防ぎきれない一般ストレッチルーフィングに比べて、ルートガードDが高い耐根性能を有していることが分かります。



一般ストレッチルーフィング

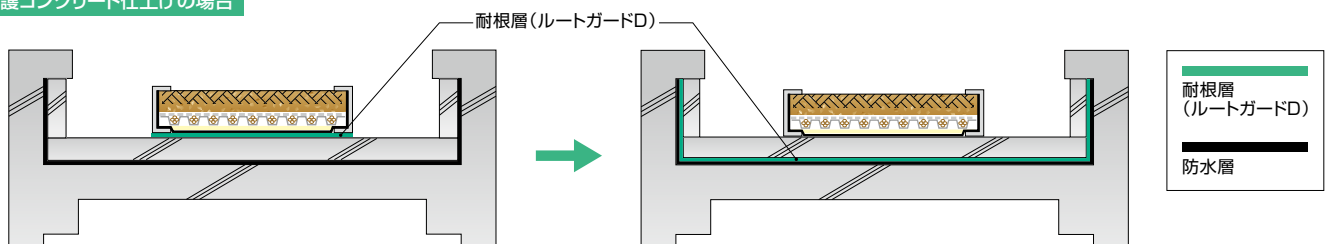


ルートガードD

## 屋上緑化の耐根層はどこに貼るべき？

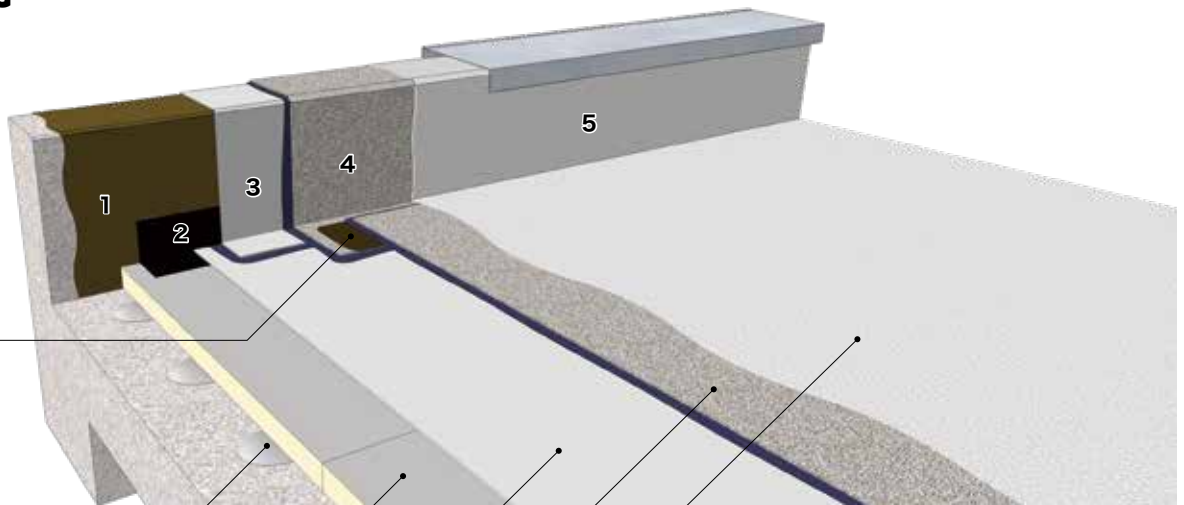
耐根層は防水性能に関わってくるので、屋上緑化部の直下だけでなく、立上り部も含め防水層全体に貼り付けることを推奨します。特に保護コンクリート仕上げの場合には、防水層に耐根層を貼り付けてから保護コンクリートを打設することが望ましい位置です。

### 保護コンクリート仕上げの場合



※緑化の詳細については別冊「グリーンルーフストーリー」カタログをご参照ください。

## JSX-020G



マルチテープR

平面部

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

## JSX-020Gシリーズ

適正勾配: 1/50~1/20 基本耐用年数: 20年  
 防水層重量目安: 10kg/m<sup>2</sup>(断熱50mm) 厚み: 約56mm  
 技術審査証明DI-1仕様対応



(単位: /m<sup>2</sup>)

JSX-020G 平面部		JSV-020H 立上り粘着併用工法	
1	クールポンド (点貼り) 0.35kg※1	水性プライマーAS	0.2kg
2	ギルフォーム※2	ASパッチ	
3	強力バンクルーフ	強力バンクルーフV	
4	強力ガムフェース	強力ガムフェースV※3	
5 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg(2回塗り)	SPファインカラー 0.4~0.6kg	SPミッドカラー 0.5~0.7kg
加算耐用年数	プラス5年	プラス3年	プラス3年
仕様番号	平面部 JSX-020G-TH 立上り JSV-020H-TH	JSX-020G-SF JSV-020H-SF	JSX-020G-SD JSV-020H-SD

※1 改修の場合は状況に応じて各種下地処理を行います。防湿層付断熱仕様はクールポンドの代わりに水性プライマーAS塗布後、ダンパーシートにてギルフォームを貼り付けます。(仕様番号例: JSX-020GF、JSX-025GF)

※2 防火(飛び火)認定が必要な場合で、厚さが50mmをこえる断熱材を用いるときはSPサーモコート仕上げとなります。(仕様番号例: JSX-020G・TH)

※3 強力ガムフェースVに代えて強力ガムフェースを用いることもできます。その場合は、入隅部にギルキャントが必要となります。

## JSX-025Gシリーズ

適正勾配: 1/50~1/20 基本耐用年数: 25年  
 防水層重量目安: 10kg/m<sup>2</sup>(断熱50mm) 厚み: 約56mm



(単位: /m<sup>2</sup>)

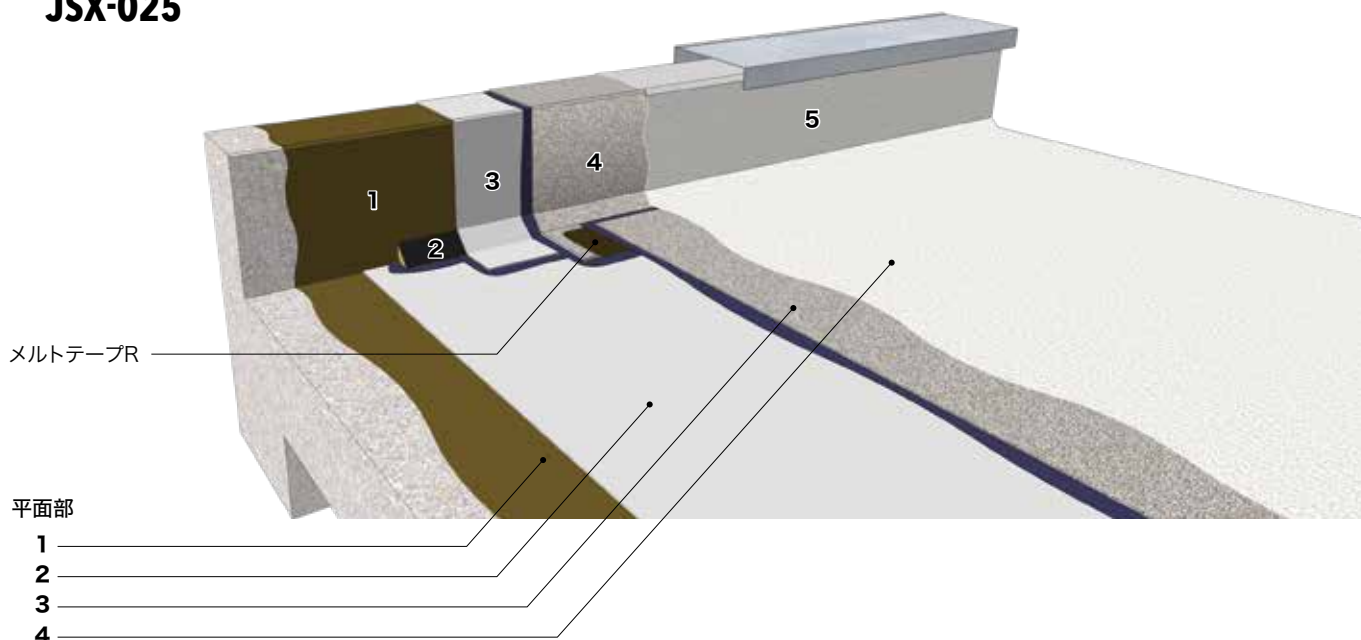
JSX-025G 平面部		JSV-025H 立上り粘着併用工法	
1	クールポンド (点貼り) 0.35kg※1	水性プライマーAS	0.2kg
2	ギルフォーム※2	ASパッチ・ギルキャント	
3	強力バンクルーフ	強力バンクルーフV	
4	強力ガムフェースEX	強力ガムフェースEX	
5 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg(2回塗り)	SPファインカラー 0.4~0.6kg	SPミッドカラー 0.5~0.7kg
加算耐用年数	プラス5年	プラス3年	プラス3年
仕様番号	平面部 JSX-025G-TH 立上り JSV-025H-TH	JSX-025G-SF JSV-025H-SF	JSX-025G-SD JSV-025H-SD

### 露出仕上げ 注意事項

- 立上り部JSV-025HおよびJSV-025では、強力ガムフェースEX施工時にバンクスローラー立上り用を用いるため面取りが必要です(ギルキャント使用)。
- 季節や立地条件によって、水性プライマーASの代わりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。
- 貼仕舞は強力ガムシールで処理します。
- 保護塗料をSPクリーンカラーにした場合の塗布量: 通常0.5~0.6kg/m<sup>2</sup>(1回塗り)、堆積物が予測される場合0.7~0.8kg/m<sup>2</sup>(2回塗り)。
- 仕様番号末尾[・SC] 例JSX-020G・SC



## JSX-025



メルトテープR

平面部

- 1
- 2
- 3
- 4

## JSX-020シリーズ

適正勾配: 1/50~1/20 基本耐用年数: 25年

防水層重量目安: 7.5kg/m<sup>2</sup> 厚み: 約6mm

技術審査証明D-1仕様対応



(単位: /m<sup>2</sup>)

JSX-020 平面部		JSV-020 立上り粘着併用工法	
1	水性プライマーAS 0.2kg	水性プライマーAS 0.2kg	
2	強力バンクルーフ	強力バンクルーフV	
3	強力ガムフェース	強力ガムフェースV※2	
4 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg(2回塗り)	SPファインカラー 0.4~0.6kg	SPミッドカラー 0.5~0.7kg
加算耐用年数	プラス2年	プラス1年	プラス1年
仕様番号	平面部 JSX-020・TH 立上り JSV-020・TH	JSX-020・SF JSV-020・SF	JSX-020・SD JSV-020・SD

※1 改修の場合は状況に応じて各種下地処理を行います。

※2 強力ガムフェースVに代えて強力ガムフェースを用いることもできます。その場合は、入隅部にギルキヤントが必要となります。

## JSX-025シリーズ

適正勾配: 1/50~1/20 基本耐用年数: 30年

防水層重量目安: 8kg/m<sup>2</sup> 厚み: 約6mm



(単位: /m<sup>2</sup>)

JSX-025 平面部		JSV-025 立上り粘着併用工法	
1	水性プライマーAS 0.2kg	水性プライマーAS 0.2kg	
2	強力バンクルーフ	ギルキヤント	
3	強力ガムフェースEX	強力バンクルーフV	
4	-	強力ガムフェースEX	
5 保護塗料	SPサーモコート 0.8~1.2kg(2回塗り)	SPファインカラー 0.4~0.6kg	SPミッドカラー 0.5~0.7kg
加算耐用年数	プラス2年	プラス1年	プラス1年
仕様番号	平面部 JSX-025・TH 立上り JSV-025・TH	JSX-025・SF JSV-025・SF	JSX-025・SD JSV-025・SD

・保護塗料による耐用年数の加算は、定期的に塗料の塗り替えを行い、その性能維持を前提とします。また価格は塗料ごとに異なります。

・立上り仕様には他のバリエーションもあります。詳しくは21ページをご参照ください。

・フレック防止脱気装置を必ず設置してください。平面部に設置の場合はステンレスペーバス(非断熱)、ステンレスペーバスW(断熱)、立上り部に設置の場合はペーバスを用います。(価格別途)

・アングルなど押え金物や雨仕舞材の価格は別途となります。

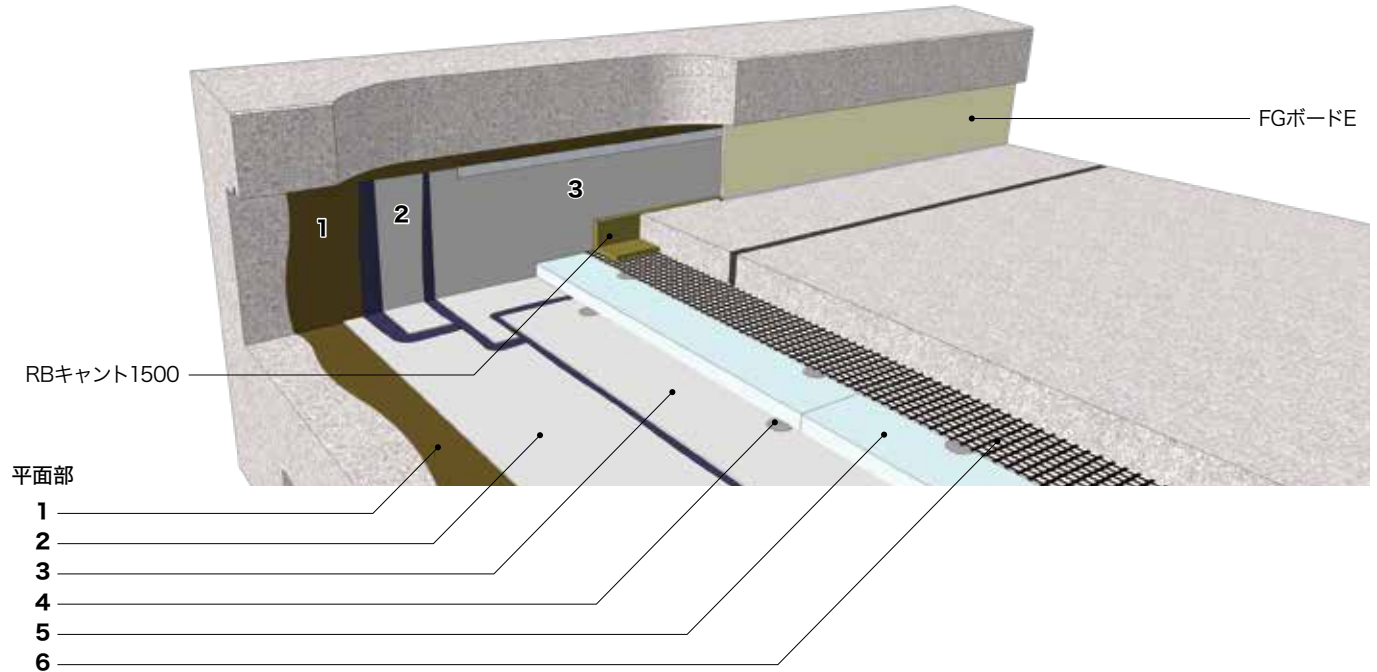
# 保護コンクリート仕上げ

断熱

非断熱

## JPX-035R

防水仕様



## JPX-035R

適正勾配: 1/100~1/50 基本耐用年数: 35年  
 防水層重量目安: 7.5kg/m<sup>2</sup> (断熱60mm) 厚み: 約64mm  
 技術審査証明AI-1、BI-1仕様対応



(単位: /m<sup>2</sup>)

	JPX-035R 平面部	JPV-035 立上りVV工法
1	水性プライマーAS 0.2kg	水性プライマーAS 0.2kg
2	強力バンクルーフ	強力バンクベストV
3	強力バンクベスト	強力バンクベストV
4	RBセメント(点貼り) 0.5kg	—
5	RBボードまたは スタイロフォームRB-GK-II	—
6	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)	—

※立上りは他の工法も採用できます。詳しくは22ページをご参照ください。  
 ※立上り隅にはRBキャント1500を使用します。(価格は別途)  
 ※立上り部乾式保護板FGボードEは価格別途です。  
 ※絶縁クロス1000の貼付けには、RBセメントの代わりにACボンドも使用できます。

## JPX-035

適正勾配: 1/100~1/50 基本耐用年数: 30年  
 防水層重量目安: 5.5kg/m<sup>2</sup> 厚み: 約4mm  
 技術審査証明A-1、B-1仕様対応



(単位: /m<sup>2</sup>)

	JPX-035 平面部	JPV-035 立上りVV工法
1	水性プライマーAS 0.2kg	水性プライマーAS 0.2kg
2	強力バンクルーフ	強力バンクベストV
3	強力バンクベスト	強力バンクベストV
4	絶縁クロス1000 (RBセメント点貼り*)	—

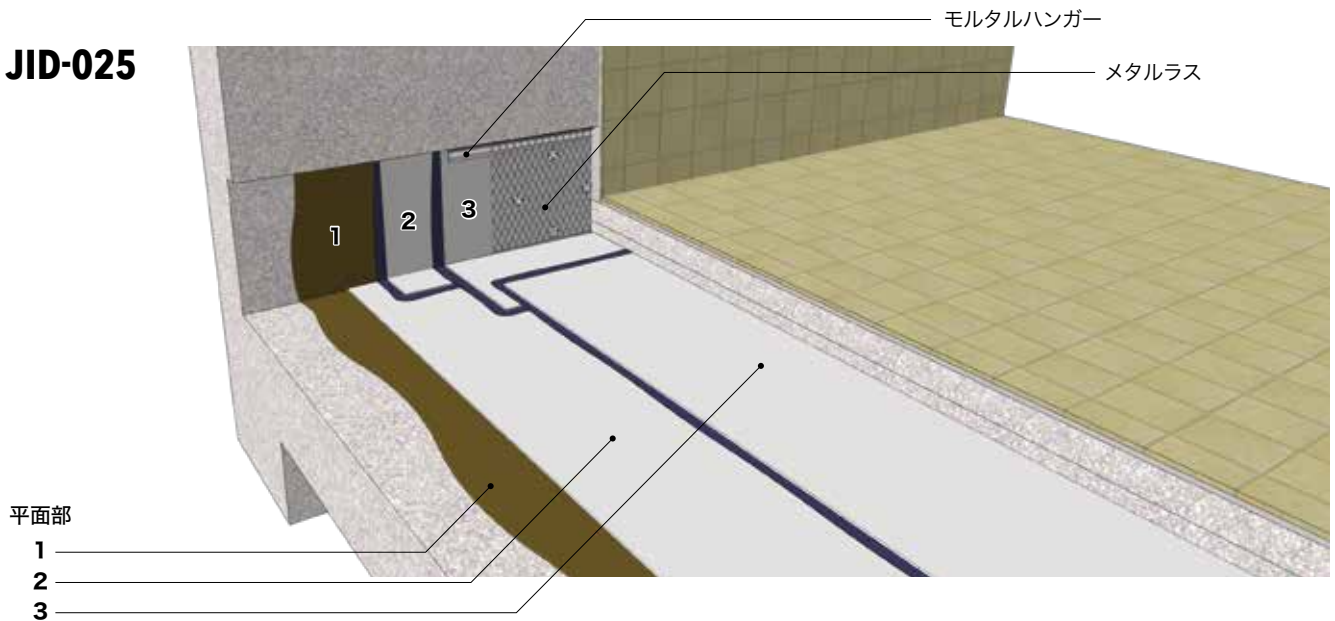
※立上りは他の工法も採用できます。詳しくは22ページをご参照ください。  
 ※絶縁クロス1000の貼付けには、RBセメントの代わりにACボンドも使用できます。

### 保護コンクリート仕上げ 注意事項

- ・入隅部は、面を取らずに直角で施工することを推奨します。
- ・季節や立地条件によって、水性プライマーASの代わりにアスファルトプライマー、アスファルトプライマーSS等を用いることもあります。
- ・JPX-035R、JPX-035を密着工法に変更する場合は、平面部工程2の強力バンクルーフを強力バンクベストVに替えて施工します。
- ・仕様番号はそれぞれJPXM-035R、JPXM-035となります。

# 屋内仕様

## JID-025



## JID-025

防水層重量目安:5kg/m<sup>2</sup> 厚み:約4mm

技術審査証明E-2仕様対応



(単位:/m<sup>2</sup>)

	JID-025 平面部		JIV-025 立上りVV工法	
1	水性プライマーAS	0.2kg	水性プライマーAS	0.2kg
2	強力バンクルーフV		強力バンクベストV	
3	強力バンクベスト		強力バンクベストV	

※立上り仕様のバリエーションは22ページをご参照ください。  
 ※屋内でも大面積の場合にはJPX-035を施工することもあります。  
 ※浴室で浴槽が壁際に設置される場合は、壁面の防水層の立上りは湯水のかからない高さまで十分にとります。

### 保護モルタル工事の留意点 日本建築学会・建築工事標準仕様書(JASS8)より抜粋

モルタル調合 セメント:砂=1:3(容積比)  
 とんぼ 防水層に200mm間隔程度で千鳥状に取付け  
 ラス類 メタルラス(プラス2号)もしくは溶接金網  
 ラス類の立上り端部 防水層立上がり端部より100mm以上上部の位置で金物を用いて下地(躯体)に固定するか、防水層末端部の押え金物に固定する。

### 屋内仕様 注意事項

- ・貼仕舞は強力ゴムシールで処理します。
- ・モルタルハンガー、メタルラスなどの金物や雨仕舞材の価格は別途となります。

# 立上り仕様のバリエーション

現場状況や周辺環境に合わせて、粘着併用工法の他にVV工法、熱工法、アスクールCを組合せることができます。

(各仕様の工程は15、16ページをご参照ください)

## 粘着併用工法 1層目を粘着、2層目を溶融施工

1層目に、裏側に粘着層をコーティングした「強力バンクルーフV」を用いることでスピーディーで確実な施工ができます。  
2層目の「強力ガムフェースV」を1層目表層の改質アスファルト層と共にバーナーで溶融して貼ることで、十分な溶融アスファルトが層間充填され、しっかりと水密性を確保します。

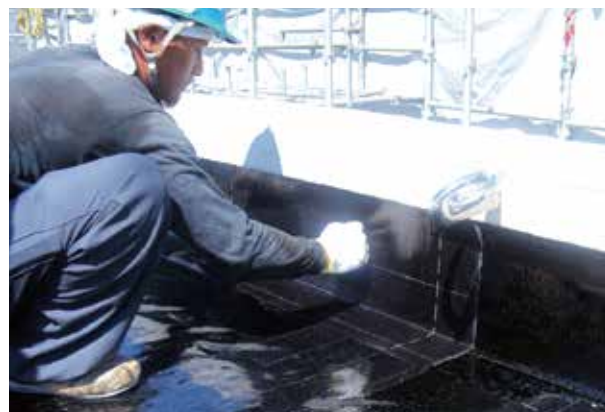


※強力ガムフェースEXまたは強力ガムフェース施工の場合

## VV工法 1層目、2層目共に溶融施工

1層目、2層目ともにバーナーを用いる施工方法です。

1層目「強力バンクベストV」裏面の改質アスファルト層を溶融して下地に貼り付けた後、2層目の「強力ガムフェースV」または「強力バンクベストV」裏面の改質アスファルト層と、1層目表層アスファルト層双方の溶融接着によって、高い水密性を確保します。



## 熱工法 立上り全層を熱アスファルト施工

BANKS工法は、従来の熱工法との併用も可能です。  
立上り部に熱工法を組み合わせることにより、防水層に高い信頼性をもたらします。



## 常温反応型改質アスファルト塗膜防水(アスクールC) 納まりの複雑な部位など

屋上には設備機器や配管・手すりなどの基礎架台が設置されていることがあります。  
このような複雑な納まり箇所では塗膜防水を併用することで、信頼性の高い防水層を形成することができます。  
常温反応型改質アスファルト塗膜防水「アスクールC」は、アスファルト防水との接着に優れており、架台周りなどの複雑部位に用いることで平面部のアスファルト防水層と連続した防水皮膜となり、信頼性の高い防水層が形成されます。

- 改質アスファルト系材料との接着性に優れているため、信頼性の高い複合工法が可能
- 耐アルカリ性に優れるためコンクリートやモルタル保護が可能
- 複雑部位や配管周りに最適

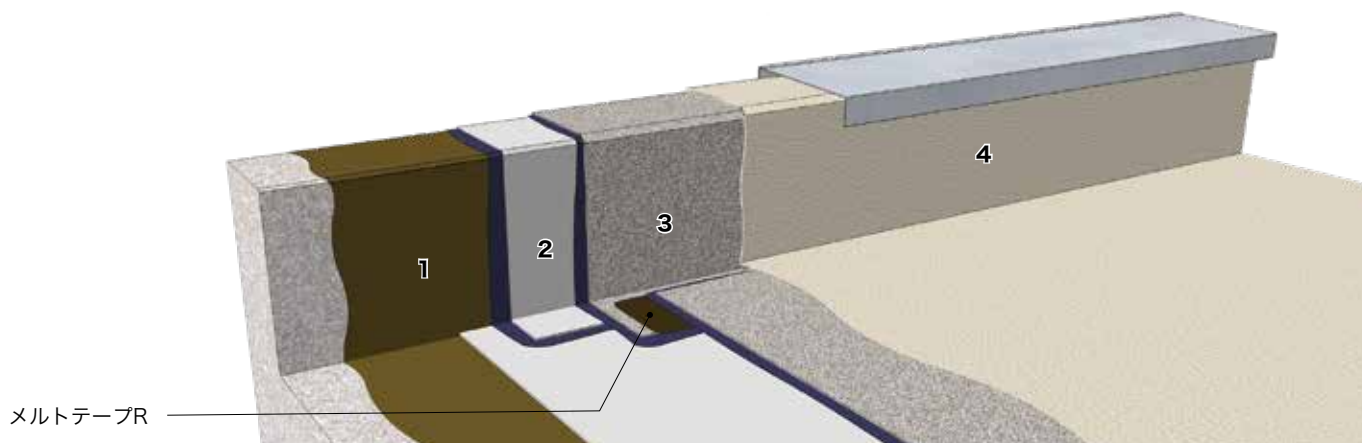


# 立上り仕様 露出仕上げ

断熱

非断熱

防水仕様



※図はVV工法

## JSV-020 (H) / JSV-025 (H)

### 粘着併用工法

立上り1層目粘着、2層目溶融施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	強力バンクルーフV	
3	強力ガムフェースV <sup>*1</sup>	
4	保護塗料	

### VV工法

立上り1層目、2層目共に溶融施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	強力バンクベストV	
3	強力ガムフェースV	
4	保護塗料	

### 熱工法

立上り全層 熱アスファルト施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	アスタイトMまたは クリンタイトJ流し貼り	1.2kg
3	強力アドバン	
4	アスタイトMまたは クリンタイトJ流し貼り	1.2kg
5	強力ガムフェース	
6	保護塗料	

※入隅にギルキャントを使用する場合があります。

※断熱工法の場合、平面部ギルフォーム施工後、ASパッチをコーナー部に増貼りします。

仕様番号はJSV-020HまたはJSV-025Hとなります。

※1 JSV-025およびJSV-025Hでは、強力ガムフェースEXとなり、入隅にギルキャントを使用します。

## 常温反応型改質アスファルト系塗膜防水

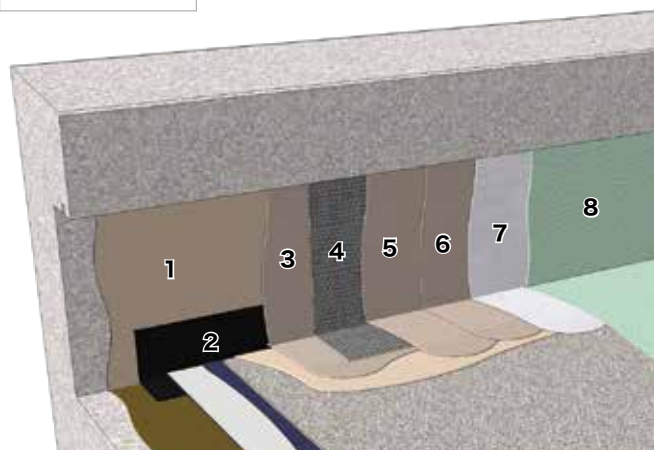
## PQ-160C

### アスクールC工法

狭隘部、納まりの複雑な部位など

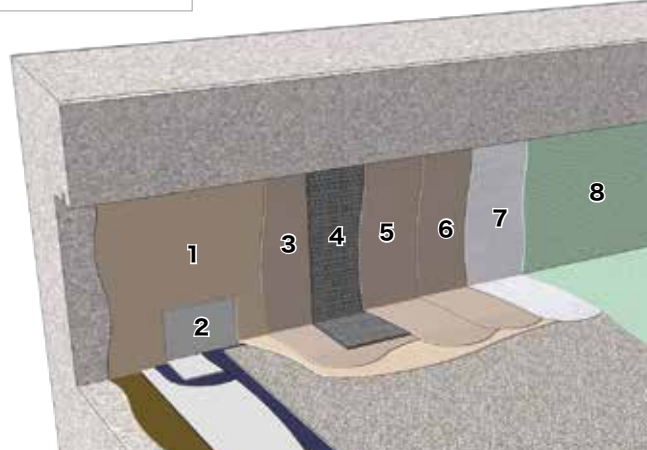
#### 先増貼り

(ASパッチの例)

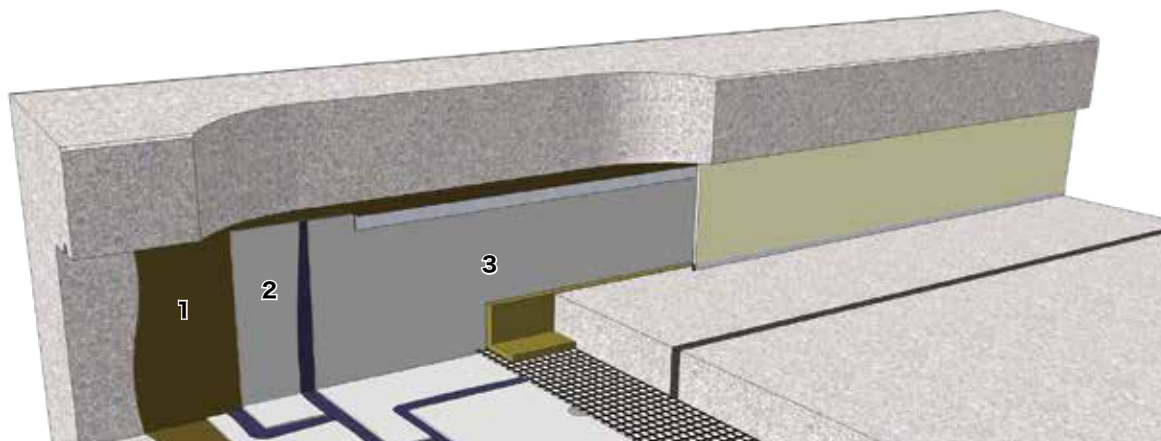


#### 中増貼り

(バンクルーフVの例)



# 立上り仕様 保護コンクリート仕上げ



※図は粘着併用法

## JPV-035

### 粘着併用法

#### 立上り1層目粘着、2層目溶融施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	強力バンクルーフV	
3	強力バンクベストV	

### VV 工法

#### 立上り1層目、2層目共に溶融施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	強力バンクベストV	
3	強力バンクベストV	

### 熱工法

#### 立上り全層 熱アスファルト施工

(単位:/m<sup>2</sup>)

1	水性プライマーAS	0.2kg
2	アスタイトMまたは クリンタイトJ流し貼り	1.2kg
3	強力アドバン	
4	アスタイトMまたは クリンタイトJ流し貼り	1.2kg
5	強力アドバン	
6	アスタイトMまたは クリンタイトJ刷毛塗り	1.5kg

先・中増貼り仕様 (左頁図参照)		(単位:/m <sup>2</sup> )		
1	OTプライマーA <sup>※1</sup>	0.2kg		
2	増貼り: ASパッチまたはバンクルーフV <sup>※2</sup>			
3	アスクールC	0.8kg		
4	マットFC			
5	アスクールC	1.2kg		
6	アスクールC	0.8kg		
7	SPベース	0.45kg		
8	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg	SPクリーンカラー 0.2~0.3kg

後増貼り仕様 (平面部ルーフィング貼付後に施工) (単位:/m <sup>2</sup> )				
1	OTプライマーA <sup>※1</sup>	0.2kg		
2	増貼り: マットFC(アスクールC 塗布貼付) <sup>※3</sup>			
3	アスクールC	0.8kg		
4	マットFC			
5	アスクールC	1.2kg		
6	アスクールC	0.8kg		
7	SPベース	0.45kg		
8	SPサーモコート 0.4~0.6kg	SPファインカラー 0.15~0.3kg	SPミッドカラー 0.2~0.3kg	SPクリーンカラー 0.2~0.3kg

※1 アスクールCを強力ガムフェースや強力バンクルーフV、強力バンクベスト上へ塗布する範囲には、予めOTプライマーAを塗布しておきます。

※2 中増貼りの場合、増貼材の平面部貼り掛け範囲のルーフィング表面を炙った後、貼付けます。

※3 アスクールC(0.8kg/m<sup>2</sup>)+マットFC増貼り+アスクールC(1.2kg/m<sup>2</sup>)

・増貼りの立上げは、平面部仕上げコンクリート面より高い位置まで貼り付けてください。(保護コンクリート仕上げの場合)

・側溝部に使用する場合は、工程6と7の間にOTプライマーA(0.15kg/m<sup>2</sup>)を塗布します。

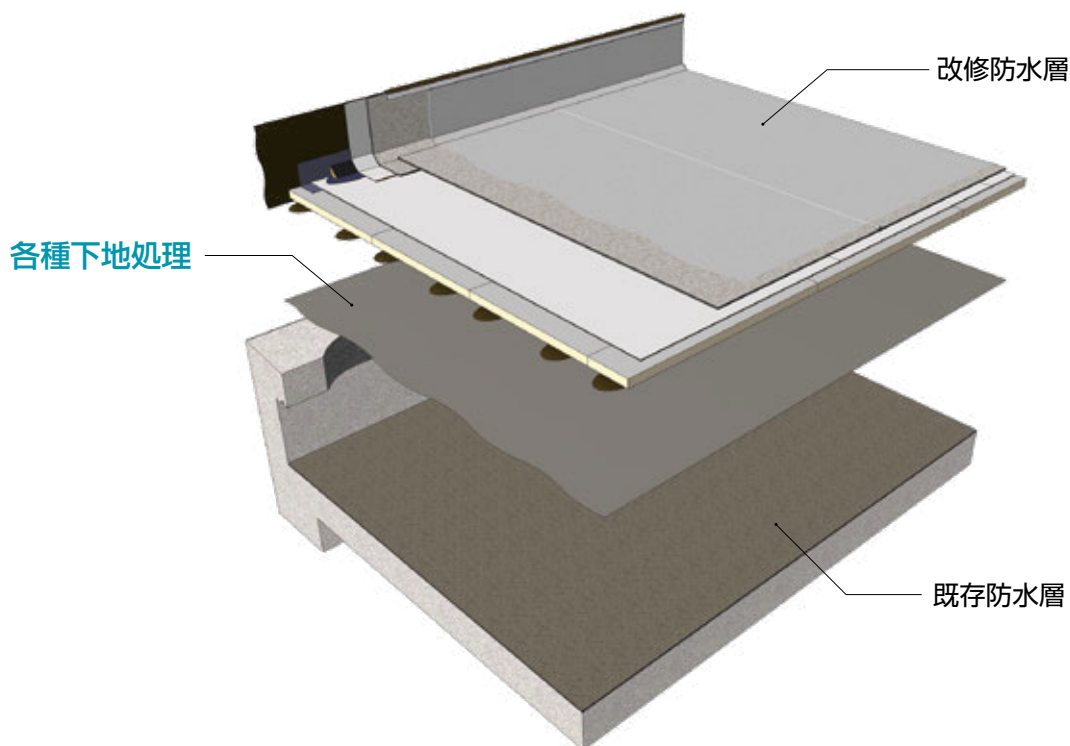
・アスクールCは水性プライマーAS、アスファルトプライマー、アスファルトプライマーSSおよび「エンシンシート」と組み合わせての使用はできません。

# 改修の場合の下地処理

防水改修には下地処理が欠かせません。

建物の状況や立地条件、既存防水層の種類など様々な要因により下地の状態は千差万別です。

適切な下地処理材を用いることが、良質な防水改修を実現するのです。



## ～下地補修材～

### リグレー

～SBR系ポリマーセメントモルタル～

湿式



幅広い用途で使用できるSBR系ポリマーセメントモルタルです。

- ・リグレー：18kg/缶
- ・リグレーパウダー 厚塗り用：20kg/袋
- 薄塗り用：20kg/袋

・適用下地：コンクリート・モルタル下地

調整厚さ	リグレー※	パウダー	施工面積
2mm厚以上	1kg (+水3kg)	厚塗り用 1袋	約2.4㎡ (5mm厚)
2mm厚未満	2kg (+水6kg)	薄塗り用 1袋	約14.5㎡ (1mm厚)

※リグレーは4倍液(リグレー：水=1：3)を作成しパウダーと混合します。

### リグレーエポ

～水性エポキシ系ポリマーセメントモルタル～

湿式



下地と強固に接着し、硬化が早い工期の短縮が図れる、下地調整材です。

- ・28kgセット (主剤：4kg・硬化剤：4kg・パウダー：20kg)

・適用下地：コンクリート・モルタル下地、エポキシ床材、磁器質タイル、金属下地

調整厚さ	主剤	硬化剤	パウダー	珪砂 (6～7号)	施工面積
2mm厚以上	4kg	4kg	20kg	4kg	約3.2㎡ (5mm厚)
2mm厚未満	4kg	4kg	20kg	—	約16㎡ (1mm厚)

## ～仮防水材～

### アスグランド

～水性ゴムアスファルト系ポリマーセメントモルタル～

湿式



既存防水層を撤去後、新たに防水層を施工するまでの一時的な仮防水に。

- ・アスグランド：9kg/缶
- ・グランドパウダー：12kg/袋

・適用下地：各種防水撤去後のコンクリート下地等

調整厚さ	アスグランド	グランドパウダー	施工面積
1mm厚	9kg	12kg	約15㎡



## ～下地処理材～

### リベース

溶剤 湿式

～ アスファルト系下地活性化材 ～



既存アスファルト防水面に塗布することで、既存面を活性化。同種のアスファルト系防水によるかぶせ工法を可能にします。

・20kg/缶

・適用下地: 露出アスファルト防水

下地の種別・状態	塗布量(目安)
砂付ルーフィング下地	1.2kg/m <sup>2</sup>
砂落した砂付ルーフィング下地	1.0kg/m <sup>2</sup>
粉付(細砂)ルーフィング下地	0.8kg/m <sup>2</sup>

### クールベース

水性 湿式

～ 水性ゴムアスファルト系下地活性化材 ～



荒れた既存アスファルト防水層の断面修復や砂付面下地処理、水溜りの不陸調整にいたるまで、アスファルト関連下地の改修にその万能さを発揮します。

・クールベース: 8kg/缶  
・クールベースパウダー: 16kg/袋

・適用下地: 露出アスファルト防水

下地の種別・状態	塗布量
砂付ルーフィング下地	1.4～2.0kg/m <sup>2</sup>
水溜り部の補修など	最大30mm厚まで
水勾配調整	一回の最大塗布 5mm厚まで

### バリボードPS

乾式

～ アスファルトパネル ～



不陸の大きい下地、割れの多い下地などに点貼りすることで下地の動きや不陸を緩衝します。

・4mm厚 0.9m×1m

下地の種別・状態	塗布量
砂付ルーフィング下地 (保護塗料なし*)	セメントMS 0.36kg/m <sup>2</sup>
コンクリート 下地	水性プライマーMS 0.2kg/m <sup>2</sup> + セメントMS 0.36kg/m <sup>2</sup>

※保護塗料ありの場合はご相談ください。

## ～プライマー～

### OTプライマー-A

～ ウレタン系一液硬化型プライマー ～



・16kg/缶  
・塗布量(目安)0.1kg/m<sup>2</sup>

・適用下地: ウレタン塗膜防水

### VTプライマー

～ アクリルウレタン系プライマー ～



・6kgセット(主剤: 2kg・硬化剤: 4kg)  
・塗布量(目安)0.1kg/m<sup>2</sup>  
※塩ビシート防水下地の場合、プライマーVT塗布後、OTプライマー-M 0.1kg/m<sup>2</sup>を塗布

・適用下地: 塩ビシート防水

### 水性プライマー-AS

～ ゴムアス水性プライマー ～



・17kg/缶  
・塗布量(目安)0.1kg/m<sup>2</sup>

・適用下地: コンクリート、加硫ゴムシート防水

# 各種仕上げ材

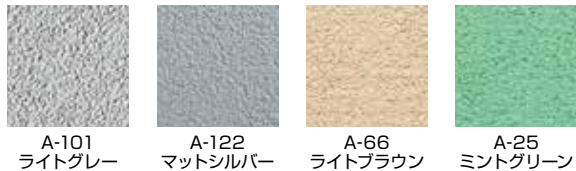
BANKS工法では標準の砂付き仕上げのほか、高反射塗料や化粧板などと組合せることができます。



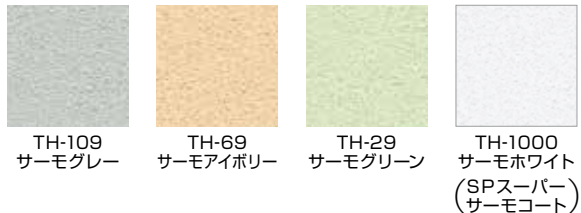
## SPシリーズ(保護塗料) 高反射塗料 グリーン購入法適合

防水層を紫外線から保護し、さらに温度上昇を抑制することで防水層の耐候性向上に貢献します。  
屋上防水層の温度上昇抑制は、都市部で問題となっているヒートアイランド現象の対策にもつながります。

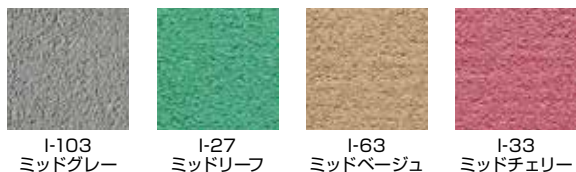
### SPファインカラー



### SPサーモコート/スーパーサーモコート



### SPミッドカラー



### SPクリーンカラー

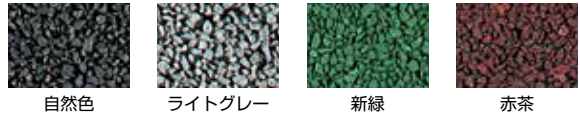


・各18kg缶  
・特注色はSPマルチカラー(非高反射品)にて対応可能です。詳細は別冊「SPシリーズカタログ」をご参照ください。  
・各色は印刷のため、現物との差違がありますのでご決定の際は色見本帳などをご参照ください。



### バリキャップ/バリキャップP (アスファルトマスチック化粧板)

厚さ6mmの砂付タイプ板状成型品で、表面に焼付彩色した砂粒や自然色砂粒を隙間なく密着させた軽歩行用の保護仕上げ材です。施工性にすぐれ、2色あるいは3色を組合せてカラフルで美しいパターンの屋上が仕上げられます。



- 500mm×1,000mm
- 6mm厚
- 5.1kg/枚

※バリキャップPは裏面フィルム仕上げ。

・各色は印刷のため、現物との差違がありますのでご決定の際は色見本帳などをご参照ください。



### エイブロック (歩行用モルタル化粧板)

吸水性の低い高性能防水モルタルに骨材を加えたコンクリート二次製品です。中間には特殊合成樹脂のネットが入っており、目地部で折り曲げ下地になじませることができます。(受注生産品)

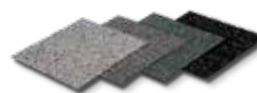


- 600mm×600mm
- 25mm厚
- 20kg/枚



### ステップスクエア500H (天然石細粒歩行化粧板)

天然の細かい砂粒と特殊配合樹脂のバインダーを混合して作った成型板タイプの仕上げ材で、粘着層付きなので裏面の剥離剤を剥がして圧着するだけで施工できます。2色あるいは3色を組合せてカラフルでデザイン性豊かな屋上が仕上げられます。



- 500mm×500mm
- 7.5mm厚
- 2.9kg/枚 ●6枚/箱

・各色は印刷のため、現物との差違がありますのでご決定の際は色見本帳などをご参照ください。

# 技術資料

BANKS工法 ～信頼されるその理由～

## 1 防水信頼性

### 耐候性試験

防水層の劣化要因には、紫外線・熱・アルカリによるもの、および温冷や乾燥の繰り返しによるものがあります。

BANKS工法のルーフィングには、従来のアスファルトと比べ耐候性に優れた改質アスファルトが使用されています。

#### ■試験方法

耐候性試験機を用いることにより、光・熱・風雨など屋上の条件を人工的に再現し、劣化の進行とその寿命を評価します。

#### ■試験条件

促進老化試験(キセノンウェザーメーター)

・5I-9C法(ASTMに準拠)

51分間Dry(試験体温度60℃)－9分間Wet(5℃の水を散水)の1時間サイクルを繰り返す。



#### ■試験体

アルミパネルに従来アスファルトとBANKS工法用改質アスファルトを1mmコーティング

#### ■試験結果

長時間の試験においても、BANKS工法用改質アスファルトは、従来のアスファルトと比べて劣化速度に大きな差があることが判ります。

#### 従来アスファルト



2000時間 表面に亀裂発生

#### BANKS工法用改質アスファルト



2500時間 良好



4000時間  
表面に細かな亀裂発生

### 低温柔軟性試験

防水層は下地応力および外部衝撃(歩行、工具等の落下、降雪など)に対して破断することなく、低温時においても柔軟性を有する必要があります。

#### ■試験体

各仕様の防水層を施工し、25mm幅にカット

#### ■試験方法

マンドレル棒(25mmφ)を使用し、防水層表面を外側にして2秒間で180度に折り曲げ、防水層の亀裂の有無や破断の有無を確認し、破断時の温度を調べます。

#### ■試験結果

BANKS工法で採用しているルーフィングは全て改質アスファルトルーフィングであり、従来のアスファルトルーフィングと比べ、低温下における防水層の柔軟性が優れていることが確認できます。

防水仕様	破断時温度
D-1	0℃
A-1	0℃
JSX-020	-5℃
JPX-035	-5℃

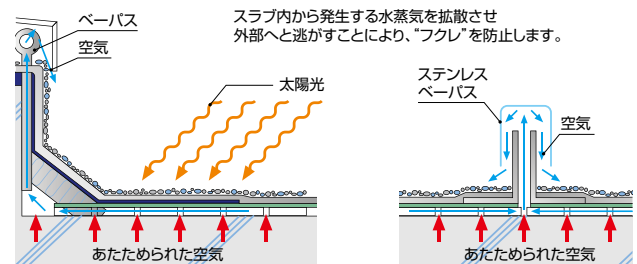
## 2 ストライプ粘着層

### フクレ防止機能と絶縁機能

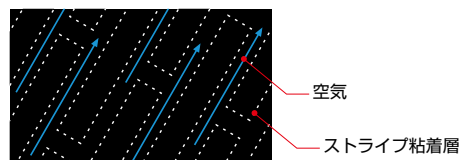
防水層のフクレは、美しく仕上げた屋上の美観を損う欠点としてその解消が求められてきました。このフクレは、防水工事の際にスラブ内に閉じ込められた水分が太陽熱によって暖められ、徐々に気化して水蒸気になり、膨張し、逃げ場を求めてルーフィングを押し上げるために起こる現象です。

BANKS工法で使用する改質アスファルトルーフィング「強力バンクルーフ」は、裏面にストライプ粘着層がコーティングしてあります。これにより防水層が部分的に下地に接着するため、水蒸気が防水層と下地との間隙を自由に拡散移行します。そして、空気の出点となる脱気装置「ベープス」「ステンレスベープス」から外部へ逃がし「フクレ」を防止します。

もう一つの機能として「絶縁機能」があります。建築構造体の変化により、近年の建物の挙動は大きくなっています。その動きによって、防水層が破断する危険性があります。そのため、下地挙動の影響を防水層に伝えることなく緩衝し逃がすことが必要です。「強力バンクルーフ」のストライプ粘着層による軟接着効果が、下地の動きに追随し、亀裂部に発生する応力を防水層全体に分散し、その破断を防止する「絶縁機能」を実現します。



### 強力バンクルーフの裏面



### 3 本格アスファルト防水

#### 溶融釜を使わないアスファルト防水

従来のアスファルト熱工法はルーフィングを積層するための溶融アスファルトを、溶融釜を用いて溶かし、施工しています。しかし、アスファルトを溶かす作業に伴い発生する臭いと煙が敬遠されています。BANKS工法は、1層目に貼り付ける「強力バンクルーフ」の表面に溶融性・流動性の高いアスファルトをプレコートし、さらに溶融性の高いフィルムを貼り合わせています。表面をあぶることでフィルムの溶け残りもなく、容易にバンク(溶け出しアスファルト)を形成し、従来のアスファルト防水熱工法と同様に溶け出しアスファルトを目視確認しながら施工することができます。

従来工法



BANKS工法



溶融釜を使用することなく、たっぷりの溶融アスファルトを使って、水密性を確保します。

#### 優れた施工性

BANKS工法と同じような施工方法に、改質アスファルトシート防水(トーチ工法)があります。国土交通省の仕様で改質アスファルト系シート防水と分類されるトーチ工法は、シートの裏面をバーナーの炎であぶり、単なる接着剤として溶けたアスファルトを利用する工法です。防水層全体の水密性を向上させるために十分な量のアスファルトを溶かしルーフィング間に充填し積層防水層を形成するという従来の熱工法やBANKS工法とは、理論的に相違があります。

#### 溶け出しアスファルトの違い

BANKS工法



改質アスファルトシート防水・トーチ工法



「強力バンクルーフ」の表面には溶融性の高いアスファルトがコーティングされています。BANKS工法はトーチ工法と比べて溶け出しアスファルトの量が多く、バンク(溶け出しアスファルト)を容易に形成できるため、水密性の高い積層防水を形成できます。



動画でその違いをご確認ください。(約25秒)

### 4 防火(飛び火)認定取得

建築基準法により、防火地域や準防火地域等の屋根は、定められた屋根構造とする必要があります。

具体的には平12建告1365号に規定された屋根構造、あるいは国土交通大臣認定を受けた屋根構造とする必要があります。

BANKS工法は、告示1365号に規定されない屋根構造について、国土交通大臣認定を取得しています。

※取得した認定構造については、弊社ホームページにてご確認ください。  
(<https://tajima.jp>)



これによりBANKS工法を防火・準防火地域の建築物の屋根(法第63条)や法22条区域の建築物の屋根(法第22条)に適用することができます。

※取得した大臣認定の構造では、水性遮熱・防火塗料「SPサーモコート」仕上げとなります。

# 材料紹介

## 強力バンクルーフ



改質 粘着 絶縁

表層に溶融性の高い改質アスファルト層をコーティングした、ストライプ粘着層付改質アスファルトルーフィング。

1m×12m巻  
厚さ:2.3mm(粘着層を含まない)

## 強力バンクルーフV

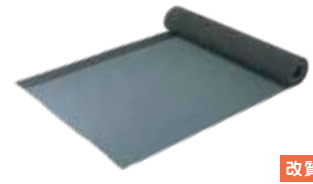


改質 粘着

立上り1層目に用いる粘着層付改質アスファルトルーフィング。表面に溶けやすいアスファルト層がコーティングされている。

1m×12m巻  
厚さ:2.4mm

## 強力ガムフェース/EX

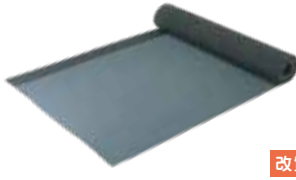


改質 砂付

露出仕上げ用の砂付改質アスファルトルーフィング。裏面は鉱物質粉粒を散着。

1m×8m巻  
厚さ:強力ガムフェース 3.2mm  
強力ガムフェースEX 3.4mm

## 強力ガムフェースV



改質 砂付

裏面に特殊易溶融性フィルムをラミネートした、立上り施工用の砂付改質アスファルトルーフィング。

1m×8m巻  
厚さ:3.4mm

## 強力バンクベスト



改質

表層に溶融性の高い改質アスファルト層をコーティングした、改質アスファルトルーフィング。裏面は鉱物質粉粒を散着。

1m×16m巻  
厚さ:2.0mm

## 強力バンクベストV



改質

立上り用改質アスファルトルーフィング。裏面をあぶって貼り付ける。

1m×8m巻  
厚さ:2.5mm

## 強力アドバン



破断抵抗性・寸法安定性など、中核材としての性能をさらに高めた合成繊維不織布基材のストレッチルーフィング。

1m×16m巻  
厚さ:1.7mm

## ダンパーシート



絶縁 粘着

断熱工法に使用する防湿層兼断熱材固定用シート。両面に粘着層(裏面はストライプ状)となっている。

1m×32m巻  
厚さ:0.8mm(粘着層を含む)

## 絶縁クロス1000



ポリプロピレンのフラットヤークロスを使用した絶縁材。

1m×100m巻  
厚さ:0.15mm

## ギルフォームS/W

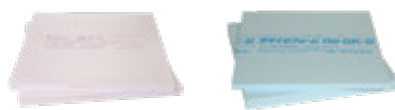


写真はギルフォーム35S

完全ノンフロンタイプ外断熱用硬質ウレタンフォーム断熱材。SとWの2サイズがある。(熱伝導率:0.023W/m・K)

S 605mm×910mm  
W 900mm×1,200mm ※Wは受注生産品  
厚さ:25、30、35、40、50、60、70、75mm

## RBボード スタイロフォームRB-GK-II



RBボード スタイロフォームRB-GK-II

保護コンクリート仕上げに最適な、完全ノンフロンタイプ押出法ポリスチレンフォーム断熱材。(熱伝導率:0.028W/m・K)

910mm×910mm  
厚さ:25、30、35、40、50、60mm

## ギルキャント



ガラスマットを貼付けたキャントストリップ材。コーナー部の施工性を向上させ、面取りの精度を高め、立上り隅の動きによる防水層の損傷を防ぐ。

長さ:910mm  
50本/箱

RBキャント1500



発泡ポリエチレン製入隅用緩衝材。裏が粘着面で、立上り際の下地になじむよう切込み入り。

20mm×150mm×1,500mm  
34本/箱

メルトテープR



砂付面に仮置き後、表層をバーナーで炙る熔融タイプの砂面処理テープ。

150mm×25m巻

ASパッチ



露出仕上げ断熱工法用のコーナー増貼り材。

200mm×16m巻

アスクールC



アスファルト系材料との接着性に優れる、立上り・架台用の反応硬化型改質アスファルト系塗膜防水材料。

20kg/セット (A剤:5kg、B剤:15kg)

SPベース



アスクールC上に塗布するアクリル系骨材入水性保護塗料。市販の砂骨ローラーにて塗布する。

8kg/缶

マットFC



ポリエステル繊維を用いたアスクールC補強用不織布シート。

1,050mm×50m巻  
(カット品:200mm×50m)

SPスーパーサーモコート  
SPサーモコート



アクリル樹脂を主成分とするエマルジョンと骨材で構成された、高耐久・高反射厚膜水性保護塗料。

各18kg/缶  
\*特注色はSPプロテクションコート(非高反射型)にて対応可。

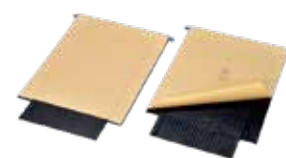
SPファインカラー/SPミッドカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用高反射水性塗料。SPミッドカラーは照り返しによる眩しさを抑えた低明度品。

各18kg/缶

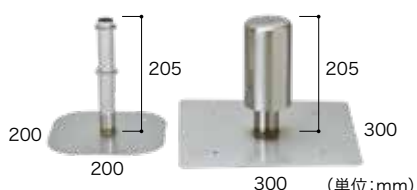
ペーパス



合成ゴム製の立上り部用通気材。10mに1ヵ所程度を目安に設置。

幅:240mm  
高さ:350、500、700、1,000mm  
各サイズ 5枚/箱

ステンレスペーパスW



断熱工法に使用する、二重式のステンレス製平面部用通気部材。70~80m<sup>2</sup>に1ヵ所の割合で設置。

1個/箱

バンクスローラー平場用/  
平場用II/立上り用



平面部と立上り部それぞれに用いるBANKS工法専用ローラー押し器。平場用IIは、部品交換せずに1,000mm幅と900mm幅を調整可能。

灯油バーナー/立上り用灯油バーナー



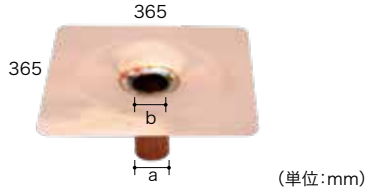
燃料に灯油を用いることで、一般的なLPガスバーナーと比べて燃料調達を容易にし、燃料費のコストダウンを実現した灯油バーナー。

\*「立上り用」は別売オプションとなります。  
\*バーナーセットと灯油タンクが2梱包に分かれて納品されます。コンプレッサーは別途ご用意ください。

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

# 材料紹介

## リードレンCたて

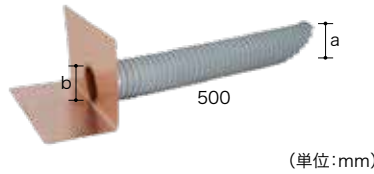


(単位:mm)

改修工用たて型銅製ドレン。  
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

9サイズあり(標準品は5サイズ)  
\*詳細については「リードレンC」のカタログをご参照ください。

## リードレンC横



(単位:mm)

改修工用横型銅製ドレン。  
既存ドレンの上に設置することで二重ドレンシステムとなる。専用アンカー付属。

7サイズあり(標準品は3サイズ)  
\*詳細については「リードレンC」のカタログをご参照ください。

## ドレンキャップ190/AS

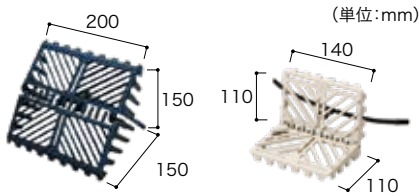


(単位:mm)

アルミダイキャスト製縦引き用ドレンキャップ。  
ステンレス製板バネ(樹脂製キャップ付)をドレン内部に差し込んで設置。

ドレンキャップ190 色:黒 1個/箱  
ドレンキャップAS 色:黒、ライトグレー 5個/箱

## ドレンキャップ横引用C200/AS

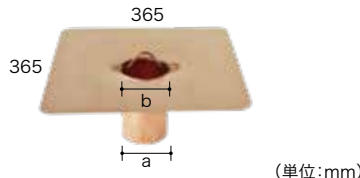


(単位:mm)

角度調節ができるアルミダイキャスト製ドレンキャップ。  
固定用ステンレス製板バネ付。

ドレンキャップ横引用C200 色:黒 1個/箱  
ドレンキャップ横引用AS 色:ライトグレー 1個/箱

## リードレンZたて



(単位:mm)

「リードレンCたて」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、連結式銅製ドレン。

1個/箱(規格については下表参照)  
\*「リードレンキャップZたて」以外との組合せ使用不可。

## リードレンZ横



(単位:mm)

「リードレンC横」をベースに、リードレンキャップZ固定用の丸棒を排水口に溶接した、強風対策型銅製ドレン。

1個/箱(規格については下表参照)  
\*「リードレンキャップZ横」以外との組合せ使用不可。

## リードレンキャップZたて

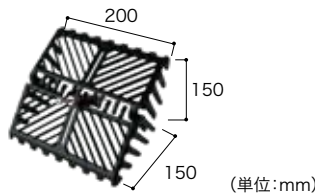


(単位:mm)

リードレンZ専用の連結式縦引用キャップ。軸芯部のJフックをリードレンZの丸棒部に掛け、Wナット締めで連結固定する。アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱  
\*「リードレンZたて」以外との組合せ使用不可。

## リードレンキャップZ横

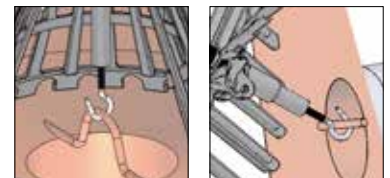


(単位:mm)

リードレンZ専用の連結式横引用キャップ。中央のJフックで連結固定する。納まりに合わせてキャップの角度調節が可能。アルミダイキャスト製。

色:黒 1個/箱  
\*「リードレンZ横」以外との組合せ使用不可。

## 連結部分拡大イメージ



リードレンキャップZたての軸心部と連結 リードレンキャップZ横の軸心部と連結

リードレンCたて:9サイズ/リードレンZたて:下線入り5サイズ

呼称	35※	45※	50※	<u>60</u>	<u>65</u>	<u>75</u>	<u>80</u>	<u>95</u>	120※
外径(a)/mm	35	45	50	58	64	74	80	95	119
内径(b)/mm	33	43	48	56	62	72	78	92	117
許容最大屋根面積(m <sup>2</sup> )*	22	44	60	90	118	176	218	339	645

リードレンC横:7サイズ/リードレンZ横:下線入り3サイズ

呼称	40※	50※	<u>60</u>	<u>75</u>	<u>90</u>	115※	140※
ホース 外径(a)/mm	40	46	60	73	86	112	137
筒 内径(b)/mm	30	36	49	60	73	99	124
配管勾配ごとの 許容最大屋根面積(m <sup>2</sup> )*	1/25	17	28	65	111	187	—
	1/50	—	—	46	78	132	298
	1/75	—	—	—	64	108	243
	1/100	—	—	—	—	93	211

### 【注意】

「リードレンC横/Z横」のフレキシブルホースは、エルボより下に落とし込んでください。落とし込んでいない場合、水が逆流する可能性が高まります。

- ※は受注生産品。(納期約2週間)
- 既存ドレンの内径を採寸し、リードレンの筒外径が既存ドレン内径より小さいサイズを選定してください。採寸には専用工具「ドレンケーシングDX」のご利用が便利です。

\*SHASE-S206(給排水衛生設備基準・同解説)に基づき計算。  
最大降雨量100mm/h当たりの許容最大屋根面積として算出。



# 使用上の注意とメンテナンス

## ご使用時の注意点

### 〈露出仕上げ〉

- 通常時における防水層上の歩行および使用は厳禁です。
- 維持補修の目的で防水層上を歩行する際には、防水層を損傷する可能性の低い履物(ゴム底の靴などの柔らかい履物)を使用してください。
- 防水層の表面が雨や雪でぬれていたり、落葉、苔、砂、埃などが堆積していると防水層上は滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- 防水層上に溶剤、油、薬品類をこぼさないよう、注意してください。万が一、こぼれてしまった際には専門工事店にご相談ください。
- 防水層に傷をつけたり、防水層上で物を落としたり、引きずったりすることは避けてください。
- 雪下ろしには、金属製のスコップなどの防水層を損傷させやすい道具を使用しないでください。
- 防水層の上に、重量物や振動物を載せないでください。やむを得ない場合には、バリキャップや防振ゴム等、防水層の養生となる物で防水層を保護してください。
- たばこの投げ捨てや防水層の上での火気使用は厳禁です。
- 防水層上に直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。

### 〈保護コンクリート仕上げ〉

- 火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- 植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。

### 〈ステップスクエア仕上げ〉

- ステップスクエア上での運動はお控えください。
- 表面が雨や雪でぬれている場合は、歩行の際には転倒にご注意ください。
- 火気の使用、直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- 植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- 断熱工法の場合は、原則として屋上利用はできません。

### 〈バリキャップ仕上げ〉

- バリキャップ上での運動はお控えください。
- バリキャップのフクレなどで利用上支障が生じている際には、専門業者にご相談ください。
- 火気の使用、直接客土しての草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- 植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- 断熱工法の場合は、原則として屋上利用はできません。

### 〈エイブロック仕上げ〉

- エイブロック上での運動はお控えください。
- 表面が雨や雪でぬれていると滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- 表面が白くなることがあります。強度には影響ありません。
- 火気の使用、直接客土しての草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。
- 植物の生育が確認された場合には、専門工事店にご相談ください。
- コンクリート製品ですので地域や気象条件により凍害や白華現象を生じる場合があります。ご了承ください。また、凍害や白華現象の発生抑制のため、できる限り排水を良くし、水たまりを作らないようにしてください。

## 定期的なメンテナンスのお願い

### 〈露出仕上げ〉

- 防水層の表面状況の点検…1年に1回  
防水層の亀裂・破断の発生状況、保護塗料の減耗状況、大きなフクレの発生の有無、設備基礎廻りの劣化状況
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回  
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回  
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況
- 保護塗料の塗り替え…塗料により塗り替え時期が異なるのでご相談ください。

### 〈保護コンクリート仕上げ〉

- 植物の発生状況の点検、清掃…1年に1回  
伸縮目地部・ドレン廻りの植物の発生状況、伸縮目地部・ドレン廻りに堆積している土砂の除去
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回  
水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回  
ゴミの清掃

### 〈ステップスクエア仕上げ〉

- ステップトップ(クリアコート)の塗り替え…5年に1回程度
- ステップスクエア表面状況の点検…1年に1回
- 割れの発生状況の点検
- 立上り防水層の表面状況の点検…1年に1回  
防水層の亀裂・破断の発生状況、保護塗料の減耗状況、大きなフクレの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回  
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回  
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

### 〈バリキャップ仕上げ〉

- バリキャップ表面状況の点検…1年に1回  
バリキャップのフクレ・砂落ちの発生状況の点検
- 立上り防水層の表面状況の点検…1年に1回  
防水層の亀裂・破断の発生状況、保護塗料の減耗状況、大きなフクレの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回  
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回  
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

### 〈エイブロック仕上げ〉

- エイブロック表面状況の点検…1年に1回  
エイブロックの割れの発生状況の点検
- 立上り防水層の表面状況の点検…1年に1回  
防水層の亀裂・破断の発生状況、保護塗料の減耗状況、大きなフクレの発生状況、設備基礎廻りの劣化状況
- 防水廻りの金物の点検…1年に1回  
立上り押え金物の設置状況、金物廻りのシーリングの劣化状況、水切金物・笠木の設置状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回  
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況

※防水層の点検・補修および仕上げ塗料の塗り替え、植栽のメンテナンスは専門技術が必要です。弊社または専門工事店に依頼してください。(有償)

# 材料一覧

種類	品名	規格	備考
シート類	強力バンクベスト	1m×16m巻	改質アスファルトルーフィング(BANKS工法用)
	強力バンクベストV	1m×8m巻	立上り部用改質アスファルトルーフィング(BANKS工法用)
	強力ガムフェース	1m×8m巻	砂付改質アスファルトルーフィング
	強力ガムフェースEX	1m×8m巻	高級砂付改質アスファルトルーフィング
	強力ガムフェースV	1m×8m巻	立上り用砂付改質アスファルトルーフィング(BANKS工法用)
	強力バンクルーフ	1m×12m巻	平面部用改質アスファルトルーフィング(BANKS工法用)
	強力バンクルーフV	1m×12m巻	立上り用改質アスファルトルーフィング(BANKS工法用)
	強力アドバン	1m×16m巻	熱工法用アスファルトルーフィング
	ダンパーシート	1m×32m巻	防湿用部分接着型シート
プライマー	水性プライマーAS	17kg/缶	水性アスファルト系プライマー
	水性プライマーMS	18kg/缶	水性アクリル系プライマー
	アスファルトプライマー	15.5kg/缶	溶剤型アスファルト系プライマー
	アスファルトプライマーSS	16kg/缶	速乾性溶剤型アスファルト系プライマー
	OTプライマーA	16kg/缶	ウレタン系プライマー(コンクリート、モルタル下地用)
	速硬化OTプライマーMブルー	8kg/缶	速硬化型青色着色ウレタン系伸介プライマー(ウレタン下地用)
	VTプライマー	6kg/セット(主剤:2kg、硬化剤:4kg)	アクリルウレタン系プライマー(塩ビシート下地用)
下地活性材・下地調整材・接着剤・アスファルトコンパウンド	リベース	20kg/缶	アスファルト系下地活性材
	リグレー	18kg/缶	下地調整用ポリマーセメントモルタル SBR系混和液
	リグレーパウダー厚塗り用	20kg/袋	下地調整用ポリマーセメントモルタル 粗粉体
	リグレーパウダー薄塗り用	20kg/袋	下地調整用ポリマーセメントモルタル 細粉体
	リグレーエポ	28kg/セット (主剤:4kg、硬化剤:4kg、パウダー:20kg)	下地調整用速硬化型水性エポキシ系樹脂モルタル
	クールベース	クールベース:8kg/缶 パウダー:16kg/袋	水性ゴムアスファルト系下地調整材
	アスグランド	アスグランド:9kg/缶 パウダー:12kg/袋	水性ゴムアスファルト系防水材
	セメントMS	1.3kgカートリッジ 12本/箱	断熱材ギルフォーム用接着剤
	クールボンド	16kg/缶	ギルフォーム用水性接着剤
	RBセメント	20kg/缶	ポリスチレンフォーム断熱材用アスファルト系接着剤
	ACボンド	18kg/缶	水性アクリル系接着剤
	アスタイトM	25kg/袋	クリーンタイプ・防水工用アスファルト
	クインタイトJ	10kg/袋	クリーンタイプ・防水工用改質アスファルト
	補助材	バリテープH	100mm×10m
メルトテープR		150mm×25m巻	エンドラップシール用熱溶融テープ
ASパッチ		200mm×16m巻	機械的固定工法用増貼りテープ
ガムリッチ18		180mm×8m巻	コーナーおよびドレン廻り用増貼りテープ
強力ガムシール		330ccカートリッジ 20本/箱 20kg/缶、9kg/缶	ゴムアスファルト系シーリング材
エンシンシート		450mm×8m巻	延伸性増貼りシート
保護塗料	SPファインカラー	18kg/缶	高反射 水性アクリル系保護塗料 色:4色
	SPクリーンカラー	18kg/缶	高強度・高反射 水性アクリル系保護塗料 色:3色
	SPミッドカラー	18kg/缶	高反射・低明度 水性アクリル系保護塗料 色:4色
	SPスーパーサーモコート	18kg/缶	高反射・防火 水性アクリル系保護塗料 色:1色

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。  
 ※改質アスファルトシート類につきましては、納品時に一定の割合で1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

種類	品名	規格	備考
保護塗料	SPサーモコート	18kg/缶	高反射・防火 水性アクリル系保護塗料 色:3色
	SPプロテクションコート	18kg/缶	防火 水性アクリル系保護塗料 特注色対応品
	SPマルチカラー	18kg/缶	水性アクリル系保護塗料 色:3色
	SPコートoneコートグレー	18kg/缶	弱溶剤系高反射保護塗料 色:1色
仕上げ材	彩色バリキャップ/バリキャップP	500mm×1m 厚さ:6mm	彩色砂付マスチック成型板仕上げ材
	ステップスクエア500	500mm×500mm 厚さ:7.5mm 6枚/箱	天然砂粒成型板仕上げ材 色:4色
	ステップエッジ	50mm×1m 10本/箱	ステップスクエア用ステンレス製端部見切り材
	RBタイル	450mm×450mm 厚さ:67mm	セメント系断熱タイル
	エイブロックBF/BJ	600mm×600mm 厚さ:25mm	セメント系タイル 受注生産品
	エイマット	1m×1m 厚さ:7mm 35枚/袋	エイブロック用緩衝材
絶縁クロス1000	1m×100m巻	ポリプロピレン製フラットヤークロス	
断熱材	ギルフォームW	900×1,200mm 厚さ:25、30、35、40、50、60、70、75mm	耐熱型硬質ウレタンフォーム 受注生産品
	ギルフォームS	605mm×910mm 厚さ:25、30、35、40、50、60、70、75mm	耐熱型硬質ウレタンフォーム 70、75mmは受注生産品
	RBボード/ スタイロフォームRB-GK-II	910mm×910mm 厚さ:25、30、35、40、50、60mm	ノンフロン押出法ポリスチレンフォーム断熱材
キャント類・ドレン・脱気材	ギルキャント	長さ:910mm 50本/箱	入隅部用コーナーキャント材
	RBキャント1500	長さ:1,500mm 34本/箱	コーナー用緩衝材
	リードレンCたて/横	各1個/箱	改修用銅製ドレン(専用アンカー付属)
	リードレンZたて/横	各1個/箱	連結用丸棒付 改修用銅製ドレン
	ドレンキャップ190	1個/箱	タテ型用キャップ(大) 色:黒
	ドレンキャップAS	5個/箱	タテ型用キャップ(小) 色:黒、ライトグレー
	ドレンキャップ横引用C200	1個/箱	横引用キャップ 色:黒
	ドレンキャップ横引用AS	1個/箱	横引用キャップ 色:ライトグレー
	リードレンキャップZたて/横	各1個/箱	連結用フック付 ドレンキャップ 色:黒
	ペーパス	高さ:350、500、700、1000mm 5枚/箱	立上り部用通気材
	ステンレスペーパス	1個/箱	平面部用通気材
	ステンレスペーパスW	1個/箱	平面部用通気材(断熱工法用)
雨仕舞材	アルミドリッパー43A	長さ:3,000mm	軒先部アルミ雨仕舞材
	フラッシュエッジ70A	長さ:3,000mm	防水層端部アルミ雨仕舞材
	フラッシュトップ60	長さ:3,000mm	立上り部アルミ雨仕舞材
塗膜防水材	アスクールC	20kg/セット(A剤:5kg、B剤:15kg)	常温反応型改質アスファルト塗膜防水材
	SPベース	8kg/缶	骨材入り 水性アクリル系保護塗料
	マットFC	1,050mm×50m巻	立上り用不織布シート
	Pシート	1,020mm×20m巻	立上りモルタル仕上げ用不織布シート
施工機械・工具	バンクスローラー平場用/平場用II	—	BANKS工法用ルーフ押し器(東西アス幹旋工具)
	バンクスローラー立上り用	—	BANKS工法用立上り部ルーフ押し器(東西アス幹旋工具)
	灯油バーナー	①バーナー、ホース ②灯油タンクの2梱包/セット	BANKS工法用ルーフ溶融バーナーセット(東西アス幹旋工具)
	立上り用灯油バーナー	立上り用灯油バーナー、備品/セット	灯油バーナー 立上り施工用オプションセット
	平板転圧ローラー/Si	各1個	防水シート立上り部出入隅部転圧用 樹脂製ローラー
ステッチャー	5本/箱	防水シート出入隅部転圧用 金属製ローラー	

 東西アスファルト事業協同組合  
<https://www.tozai-as.or.jp>

田島ルーフィング株式会社  
<https://tajima.jp>

東京支店

〒101-8579 千代田区外神田4-14-1  
TEL 03-6837-8888

大阪支店

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5  
TEL 06-6443-0431

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6  
TEL 011-221-4014

仙台営業所

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35  
TEL 022-261-3628

北関東営業所

〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-49-8  
TEL 048-641-5590

千葉営業所

〒260-0032 千葉市中央区登戸1-26-1  
TEL 043-244-3711

横浜営業所

〒231-0012 横浜市中区相生町6-113  
TEL 045-651-5245

多摩営業所

〒190-0022 立川市錦町1-12-20  
TEL 042-503-9111

金沢営業所

〒920-0025 金沢市駅西本町1-14-29  
TEL 076-233-1030

名古屋営業所

〒460-0008 名古屋市中区栄1-9-16  
TEL 052-220-0933

神戸営業所

〒650-0023 神戸市中央区栄町通6-1-17  
TEL 078-330-6866

広島営業所

〒730-0029 広島市中区三川町2-10  
TEL 082-545-7866

福岡営業所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35  
TEL 092-724-8111

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。
- ・下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。